

マツダ財団支援

市民活動報告書

第32回(2016年度)

公益財団法人 マツダ財団

The Mazda Foundation

この市民活動報告書はマツダ財団が2016年度に支援を行った「青少年を育むための市民活動」33件の活動を紹介するものです。

マツダ財団市民活動支援は、次代を担う子どもたちが、いろいろなことに興味を持ち、多くの感動を得ることのできる生活体験の機会の提供や地域社会づくりのための諸活動を支援します。

対象とする活動は、青少年の健全育成を目的とした、主に民間の非営利活動で、自然とのふれあい ボランティア育成 地域連帯 エコ 国際交流・協力 科学体験・ものづくり の各場面で、特に以下の各活動を支援します。

- 子どもたちの参画度の高い活動
- 創意工夫を育てる活動
- 地域での様々なささえあい活動
- 学校と地域が連携する活動
- 次世代のリーダーを育てる活動
- 災害復興支援活動。

青少年の範囲は概ね6歳～24歳。

募集地域 広島県、山口県

マツダ財団 第32回(2016年度)市民活動支援一覧 - 青少年健全育成 -

下記一覧の団体名等は、申請応募時の記載に従う。

活 動 名	団体名	ページ
志和堀ホタルまつり	ホタルまつり実行委員会	1
再非行と非行防止、青少年の健全育成のための活動	NPO 法人食べて語ろう会	3
防災教育を進め備えよう	防災教育を進める北小と地域の会	5
ぼくたちの道しるべ～違っていてもいいんだよ～自閉症スペクトラムの子どもの得意を生かす子育て 家庭療育を進めるプロジェクト	発達障害親の会 * P E A C C H *	7
地域連帯～出逢い・感動・輝きの輪をひろげよう！～	遊友クラブ	9
広島思春期問題研究会およびふれあいの会	広島思春期問題研究会	11
限界集落の寺院と連携した現代の寺子屋復活	特定非営利活動法人みよし子育て学び支援あすなる	13
おかげんさんまつり	切串おかげんさんまつり実行委員会	15
地域とこどものアイデアいっぱい青空カフェ	まるごと府中実行委員会	17
子供達が竹細工づくりでおもてなし（竹杖・竹寿司巻き・篠笛等を作って、地域のお年寄りなどにプレゼント）	大道山竹炭工房	19
援農ボランティア事業	広島県担い手同志組合おもしろい農!	21
親子ユニバーサル図書館（通称:みどりの森親子図書館）	市民グループええじゃん(Asian)	23
にじいるキャンプ2016	NPO 子どものひろばヤッチャル	25
教えて！赤ちゃん先生～わたしもあなたも大事な命～	ママの働き方応援隊 広島東校	27
親子で遊ぼう会	NPO 広島発達支援の会リバシー	29
江田島を基点としたアートと哲学による青少年育成	ELCAP(エルカップ: Etajima x Local x Culture x Art x Philosophy)	31
子どものための音楽プロジェクト	NPO 法人心豊かな家庭環境をつくる広島21	33
安佐北区落合東地区の小学生を対象とした大学生による学習支援	E フロントニア	35
若者と本と地域を紡ぐまちかど図書館『BOOK リンク』プロジェクト	若者活動サポートセンターあおぞら	37
昔のあそびフォーラム in ふくやまプロジェクト	花ネットワーク・BINGO	39
次世代リーダー育成「将来の夢を描くドリームマップ」を作ろう！ in HIROSHIMA	一般社団法人ひろしまドリームマップ協会	41
田んぼの楽校	広島市シェアリングネイチャーの会	43
レゴロボットによる科学体験サロン	HMCN (Hiroshima Motion Control Network)	45
地域の誰もが集える場～ひねもすようこそ～	ひねもすようこそ	47
「ストレスフルな社会をしなやかに生きる『レジリエンスな次世代を育む』活動」	特定非営利活動法人日本タッチ・コミュニケーション協会	49
絵本との出会いプロジェクト	絵本たねまき塾	51
障害児主体の畑活動	特定非営利活動法人『My Life』	53
環境守り隊 1・2・山南！～ふるさと山南の環境を守るためにわたしたちができることは何だろう～	福山市立山南小学校「環境守り隊 1・2・山南(さんな)！」	55
地域で子ども達への読み聞かせ活動	読み聞かせボランティア“こころ”	57
理系子ども育成応援活動	特定非営利活動法人 山口科学技術子供フォーラム	59
自然と触れ合う中で主体性の心を育む宿泊研修	公益社団法人 防府青年会議所	61
安田の糸あやつり人形芝居伝承事業	周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会	63
友だち 100 人プロジェクト～異世代交流によるコミュニケーション能力の向上～	長門市中央公民館運営協議会 子ども部会	65
合 計	33 件 875 万円	

活動名	団体名	ホタルまつり実行委員会
志和堀ホタルまつり	地域	広島県東広島市
	代表者	会長 上島 寿彦
	支援金額	25 万円
	活動概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・まつりの取組を通して、地域の活性化を図り、地域が元気になるよう推進していく。 ・次代を担う青少年の健全育成化を図る。保育所・小学生・中学生の発表の場として、自信をもって表現できる力を育てる。志和堀の良さを知り、子供時代の良き思い出をつくる。 ・自然を大切に、自然と調和を図っていくことを大切にする。川を汚さない(清掃)、きれいな川を守っていく意識を高める。「ホタルの棲む里づくり」を推進していく。 ・学校、PTA、地域が一体となり住みやすい里づくりを推進。 <p>(当日) 雨のため会場をグラウンドから体育館へと変更。普段は来場者 3,500 名が雨のため 500 名へと激減。</p> <p>実施時期：2016 年 6 月 4 日(土)16：30-21：00 志和堀小学校体育館</p> <p>参加人数：一般参加 500 名、小学校 60 名、保育所 40 名、PTA 20 名、老人会 50 名、壮年会 40 名青年会 30 名、消防団 40 名、生城太鼓 10 名、志和中学校 30 名、ヒロタニ 35 名体育振興会 5 名、自治協議会 14 名、ハーキュリーズ 20 名、広島県警音楽隊 30 名、東志和(小)20 名、来賓 10 名、実行委員 10 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,000 名</p>		



保育園児や小中学生の発表の場



雨のため体育館で開催



フラワー台



「ホタルの棲む里づくり」を推進していきたい

実施に伴う効果

1. 地域の協力度が大変良かった。雨のため来場者が激減したにもかかわらず、売店販売人員は変わらず、売れ残った品物をその関係者が快く購入して協力してくださった。
2. 雨のため急速体育館に変更し、やむを得ず売店面積を縮小したが、狭い中で販売人員も変更無しで協力してくださった(売店テントは 22張りを11張りに変更)。
3. 小学校も快く会場を提供していただき、出演者の控室にも音楽室・理科室・教室など場所を提供してくださった。
4. 雨のためテント張りが重要であり、通路なども楽器が濡れないようテント (5張り)も設置。地域の方が快く手伝ってくださり、16張も2時間作業で終了した。翌日は 80名の方が学校通路確保のため16テントを移動、舞台・売店の後片付けや、翌々日テント除去も 20名が応援してくださった。このまつりも 30年経過しており、毎年 3,500名の来場があったが今年は雨のため来場者 600名と激減したにもかかわらず出演者、売店協力者含め 400名と志和堀地区の協力度の高さを改めて感じた。出演者、売店協力者、来場者含め 1000名の方で会場がにぎわった。

苦労した点

雨が降るといいう事が、前日に予想されたため、急速グランドから体育館に変更する事を実行委員会で決定。レンタルした足場、トイレは 1週間前に設置していたため支払い費用が発生。しかしシャトルバス、ガードマン、発電式照明装置と、考えられる物件は連絡して中止を要請実施した。

1. テント張りを体育館のそばに設置。テント位置をマークして混乱しないようライン引き実施。これに時間を要した(約2時間)。
2. テントとテントの間に水がこぼれるため、販売が困難。そのため張りの間にトイレを設置。これが有効であった。販売中品物が濡れる、通行中に雨に濡れない等、波及効果は大きかった。
3. 雨を予想していなかったため、体育館内の開催は初めてあり、飾りの配置工夫に手間取った。
4. 来場者数の予想が困難。しかし販売数量を削減、またその協力要請を各団体に要請。
5. 雨天決行を当日、軽トラックでマイク放送連絡した。

今後の課題・発展の方向性

志和堀地区は人口減少化傾向にあり、また市街化調整区域であり、人口増加は大変難しい。しかし広島市に最も近く、自然豊かな地域である 14km²と狭い面積ではあるが「まちづくり」には「まつり」はかかせない要因であり、自然を大切に、自然と調和を図り、次世代を担う健全育成を進め、若者が帰って来るようなまちづくりを推進していきたい。

活動を終えての感想・意見等

1. 雨という条件の中、地域の皆様の協力は大変迅速で素晴らしかった。
2. マツダ財団のご支援をいただき、収益激減のおり大変有難く、厚く御礼申し上げます。

来年もマツダ財団のご支援よろしくお願い致します。

活動名	団体名	NPO 法人食べて語ろう会
再非行と非行防止、青少年の健全育成のための活動	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 中本 忠子
	支援金額	30 万円
活動概要	<p>1. 様々な事情によって、家庭で満足に食事がとれないため、万引き等の非行に走るおそれのある子供たちに無償で食事と居場所を提供し、その過程で様々な悩みを聞くなどして、立ち直りを支援すること。</p> <p>2. 講演会の開催や更生保護関係者とともに交流会(食事会)を開催し、活動に対する理解と協力を得ること。</p> <p>実施時期</p> <p>1. 子どもたちに対する無償での食事・居場所の提供 横川の家 日時 不定期、午後5時～午後8時までの間 中本理事長宅(12月中旬まで活動、それ以降は基町の家で実施) 日時 毎日午前11時～午後9時ころまでの間(第1・第3日曜日を除く。) 食べて語ろう会・基町の家(12月中旬から稼働) 日時 毎日午前11時～午後8時までの間(第1・第3日曜日を除く。) 広島市中央公民館 日時 毎月第1・第3日曜日午後5時～午後8時までの間(4月～8月までは毎週日曜日実施)</p> <p>2. 講演会及び交流会の開催 7/31 15:00～19:00、8/21 13:00～14:45、11/13 14:30～19:00</p> <p>参加人数</p> <p>1. 食事を提供した子供たち及び交流会参加者(述べ4,403名) 7月～3月までの間 2. 講演会出席者(197名) 参加総人員 4,600名</p>	



「基町の家」の開所披露式



12月中旬から稼働を始めた「基町の家」



「横断幕」 野菜や魚などの食材をハートの形にデザインされたロゴ



中央公民館での調理風景、この後、子ども達と一緒に食事。

実施に伴う効果

1. 最近、子供の貧困問題が社会問題となり、全国各地で子供食堂(その殆どが有料)の開設が相次いでいます。本会の中本理事長は、37年前から子供たちへの食事提供と居場所づくりによる非行防止活動への取組みが一躍注目を浴び、PHP社等出版社から取材申込が相次ぐと共に、女子大学生の視察(上智大学、日本福祉大学、広島文教女子大学など)やマスコミ取材の他、NHKスペシャル(ばっちゃん～子供たちが立ち直る居場所)で全国放映されたことから、県内各地(広島市、三次市、福山市)をはじめ大阪西成区・あいりん地区など県外からの講演要請など、大きな反響を呼びました。特にNHKスペシャルは海外でも放送され、アメリカ在住の日系人や日本人留学生からも支援が届きました。また1月25日に、検察最高責任者の最高検察庁西川克行検事総長が広島高等検察庁の酒井邦彦検事長と共に基町の家を訪問、少年の更生保護活動の実態を視察されました。
2. 長年の懸案事項であった新拠点「食べて語ろう・基町の家」の開設を平成28年12月中旬に実現したことを機に、子供たちの訪れる数が飛躍的に増加し、現在、広島市内の8区のほか東広島市や大竹市からも食事に訪れるようになり、同所では1月は855食、2月が689食、3月は1,134食を提供し、それまでの3倍以上に達しました。また、調理ボランティアの応募申込も司法修習生や大学生、主婦などから寄せられるようになりました。
3. 中本理事長の功績が認められ、昨年の広島市民賞受賞に続き、本年4月11日、第51回吉川英治文化賞を受賞しました。

苦労した点

1. 予算措置：
増加の一途を辿る食事提供需要に対応するため、女性中心の役員及びボランティアが連日調理・給食作業にあたっていますが、すべて無報酬で、交通費実費さえ支給できておりませんでした。各財団等からの支援の拡大によって若干、予算上の余裕が生じたため、平成28年度予算の執行残を使用して、心ばかりの謝礼と交通費実費を支給でき、活動に報いることが可能となりました。
2. 新拠点の確保：
中本理事長は、30数年にわたり、連日、自宅で食事提供を続けておりましたが、プライベートを犠牲にするとともに、80歳を超える年齢に達し、心身の疲労は極限に達しておりました。そのため、近隣に新たな拠点を確保する方針とし、広島市をはじめとする関係機関に要望をしておりましたところ、昨年6月に基町商店街の空き店舗を提供(賃貸)するとの回答があり、整備費を確保して什器備品を調達し、昨年12月に「基町の家」を新設し、長年の懸案事項の実現に至りました。
3. 活動の発展のために
広島市内でも、宗教団体や地域団体で子ども食堂開設がなされています。こうした事業の継続的な実施のノウハウを市民に理解頂くと共に、広島市内はもとより、県内各地でこの事業を更に拡大させる目的で、本年3月5日には広島市総合福祉センターにて、社会福祉法人広島市社会福祉協議会主催による「社会的課題に取り組む実践発表会」に参画したところ、多数の市民の参加があり、本会の活動の概要や事業活動を行ううえでのノウハウの発表を行い、理解と協力を呼びかけました。

今後の課題・発展の方向性

1. 後継者の育成
中本理事長は、83歳を迎えましたが、毎日の調理・給食、講演、各行事への参加等、業務量は増加の一途をたどっており、早期に後継者の育成に努める必要があります。
2. 支援者の拡大
無償での食事提供を続けるためには、財政的な基盤を強化することが求められ、今後さらに会員の獲得、寄付金募集、各企業からの助成金や食材の提供に努める必要があります。
3. 組織基盤の整備
現在は、理事9名、監事2名、顧問2名、ボランティア10数名の体制で運営していますが、すべてのスタッフが非常勤・無報酬で、事業の拡大に伴い負担が増大しています。特に運営の中心となる調理・給食部門の体制強化やモチベーションの向上を図る必要を痛感しております。
4. 情報発信活動の強化
子供たちの置かれている環境や貧困の実態、及び本会の活動実態を広く社会に訴え、市民や行政をはじめとする関係機関の理解と協力が得られるよう情報発信に努め、子供たちの環境改善が図られるようにすることが我々に与えられた重要な使命と考えております。今後とも同一目的で事業を行っている他団体との連携強化を図り、さらに活動の輪が広がるように努めます。

活動を終えての感想・意見等

大変ハードな活動ですが、支援者や子供達の笑顔を励みに、今後ともさらに頑張りたいと考えております。貴財団のこれまでのご支援に対し、理事長はじめ役員一同、心より感謝申し上げます。

活動名 防災教育を進め備えよう	団体名	防災教育を進める北小と地域の会
	地域	広島県安芸郡
	代表者	校長 尾久葉 則子
	支援金額	25万円

活動概要

府中北小学校の青空広場を、防災教育を進める拠点と地域の災害発生時の対応拠点として整備する。そのため、北部町内会長連合会を中心とした地域住民や府中町消防署、「防災教育を進める北小と地域の会」と学校で連携し、5年生の総合的な学習の時間のテーマ「防災教育」を軸に以下の活動を行い防災への意識を高める。

第5学年の総合的な学習の時間のテーマを「防災教育」と位置づけ児童の調べ学習やそれに伴って発生する子どもたちの「やってみたいこと」を軸に学習を進めていった。

○子どもたちから出てきた「やってみたいこと」

- ・防災の部屋づくり
- ・防災かまどベンチの作成，それを用いた炊き出し訓練
- ・避難訓練での成果発表会
- ・野外活動での避難所体験，空き缶ご飯づくり，ロープワーク 等
- ・防災頭巾づくり

実施時期：2016年4月6日～2017年3月17日

参加人数：

通常の活動：720名（児童39名＋教諭1名＋地域住民1～9）×16

野外活動での空き缶ご飯づくり、ロープワーク、避難所体験：45名（児童39名、職員6名）

防災かまどベンチ作成：56名（児童39名、教職員5名、講師2名、地域住民10名）

防災の日防災発表会、炊き出し体験：150名（児童、教職員、保護者、地域住民）

防災頭巾作り：215名（児童39名＋教職員4名）×5

防災かまど炊き出し体験：94名（児童82名＋教職員8名）

BOSAI HEART フェスタ：58名（児童39名、教職員3名、保護者・地域16名）

参加総人員 1338名



「防災教育」をテーマに「総合的な学習の時間」に取り組む5年生



作成風景



普段はベンチ、だが、非常災害時には「かまど」



防災かまどベンチ

実施に伴う効果

- 防災教育に取り組んでいることを学校だより、5年生学年だより等で情報発信することで、府中町消防署の職員や地域からも協力が得られ、「防災かまどベンチ」の作成や避難訓練において連携して活動することができた。
- 特に5年児童の意識が防災意識が高まり、野外活動においても空き缶ご飯作りをはじめとする「防災教育」のプログラムを加え学習を進める等、児童の学習意欲が高まった。
- 防災教育への取り組みを消防署や地域と連携して具体的に進めたことは、地域全体の「防災」への意識向上につながった。

苦労した点

- 予算面ではマツダ財団からの助成を頂き、「防災かまどベンチ」の作成をはじめとした具体的な活動にとりかかることができたが、初めての体験でもあり必要物品の抽出や購入方法、運搬などに時間がかかった。
- 外部へのPRについては、学校だより等で情報発信を行い、順当にPRできた。案内を出しても出欠の確認はしなかったため、参加者（人数）の把握に苦労した。
- 様々な活動への参加者については、北部町内会の会長さんや防災教育を進める北小と、地域の会の会長さんに協力を要請した。地域の方に地域の窓口になって頂いて声かけをお願いしたが、日時によっては少ないこともあった。
- 地域の理解は活動の趣旨が伝わるにつれ、少しずつ進んできた。避難訓練と併せて実施した子どもたちの炊き出し訓練にもたくさんの地域や保護者野方々に参加していただいた。府中消防署の協力も得られるようになり、「防災かまどベンチ」の作成にも参加していただいた。日程調整や協力者への連絡、当日の活動への関わり方等に気を配った。

今後の課題・発展の方向性

- 緊急時に活用できる防災かまどベンチや組立式テーブル、椅子セット、オーニング（ブルーシートによる雨よけ、日よけの屋根）を作成して残したが、本年度5年生が卒業しても定期的に活用し、緊急時に実際に使えるよう訓練しておく必要がある。
- 昨今、防災教育の必要性が高まっていること、また本校校区内の多くの地域が「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」に指定されたこともあり、防災教育を本年度だけの取り組みに終わらせるのではなく、地域も巻き込んだ活動として継続していく必要がある。
- 引き続き、地域に理解と協力を求め、地域の皆様のためにもなるように連携を進めていきたい。

活動を終えての感想・意見等

このたびの活動にマツダ財団市民活動助成を得られたことは、児童の発想を具現化する上で、予算面（実際に活動に必要な「物」が購入できるという裏付け）で大きな支えになり、子どもたちの活動の意欲付けとなりました。東北大震災、広島土砂災害等の発生により、ますます「防災教育」の必要性が高まってきており、避難場所にもなっている学校から「防災教育」に係る情報発信をすることは大きな意義があると感じました。子どもたちの発想から作成した「防災かまどベンチ」はその象徴として今後も存在し続け、これは子どもたちの達成感・満足感だけではなく、地域への大きな貢献であると思われます。学校の活動を外部へ知って頂くことは学校を開くことであり、学校の取り組みを理解していただくことになり、今回支援をいただいたことに大変感謝しております。子どもたちも、最後に「防災かまどベンチ」に取り付けたプレートを見て、改めてマツダ財団支援を受けて防災教育を進めることを再確認し、地元産業であるマツダに感謝と親近感を抱いております。

活動名		団体名	発達障害親の会 *PEACCH*
ぼくたちの道しるべ～違っていてもいいんだよ～自閉症スペクトラムの子どもの得意を生かす子育て 家庭療育を進めるプロジェクト		地域	広島県広島市
		代表者	代表 唐内 愛
		支援金額	30万円
活動概要	<p>自閉症スペクトラムの子どもたちの困難さを、優れた特性や得意なことを生かして支援することを目標にした活動をしました。</p> <p>親子活動・月1回（音楽療法、買い物活動、造形活動、クッキング活動など） 保護者交流会・月1回（保護者同士の交流、意見交換、勉強会など）</p> <p>親子活動では、子どもたちの興味関心の幅を広げる内容を取り入れました。保護者交流会では、子どもへの関わり方や行動支援の工夫を学び、これらにより、子どもたちの自己肯定感を育て、子どもたち自身が自分の得意を知り、定型発達のお子さんとの違いを優劣ではないことと理解でき「工夫すれば自分是可以るんだ」と思えるよう～道しるべになるような支援～をしていくことを目的として活動しました。</p> <p>実施時期： 2016年4月1日～2017年3月31日</p> <p>参加人数： 親子活動（360名） 保護者交流会（458名）</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 818名</p>		



一般公開の講演会



研修会



親子活動での一場面・音楽療法



親子活動での一場面・造形活動(陶芸)

実施に伴う効果

- ・ 子どもとの関わりを正しく学ぶことで、よりよい親子関係が築ける糸口になった。
- ・ 支援について、正しい知識を得ることが何よりも力になるということを実感できた。
- ・ 学校やデイへ行き渋る子どもも居るが、親子活動は「分かる！」「楽しい」場所になった。
- ・ 障害児通所支援事業所から見学の依頼があった。
- ・ 地域コミュニティや支援団体から意見を求められたり、イベントのお誘いがあった。

苦労した点

- ・ 会員が増えれば増えるほど、多様性が増すため運営に工夫が必要になってきた。
- ・ 学びの質を落とさないことを考えると、スタッフの負担が増すことに繋がった。
- ・ 盛りだくさんの内容であるが故、予算配分に難しさがあった。
- ・ 講師の方への謝礼が薄謝となるのが最も頭を悩ませるところであった。

今後の課題・発展の方向性

- ・ 次年度は、5周年の節目となるため、保護者の立場で、より継続的に自閉症支援に取り組めるような枠組みを模索したいと思う。
- ・ 任意団体であることや、会員への過度な負担を掛けないポリシーから、資金力がないため、継続と言った意味では今後への不安が常にある。
- ・ 保護者の学びとプログラムの効果を数値化していきたいと思う。

活動を終えての感想・意見等

貴団体にご支援頂いた事で、活動の幅を広げることが出来ました。
また同時に、会の活動内容を評価して頂いたという経験から、私達スタッフの視野や展望が広がり、お金には代えがたい「次のステップへの希望」を頂きました。
まだまだ微力で未熟ではございますが、障害のある子供たちが、将来「より豊かで自立的な生活」を送る事ができるよう学び続けると共に、「保護者の会」ならではの社会貢献の形への模索を続けていきたいと思っております。
ありがとうございました。

活動名	団体名	遊友クラブ
地域連帯～出逢い・感動・輝きの輪をひろげよう！～	地域	広島県福山市
	代表者	代表 井田 豊隆
	支援金額	40万円
活動概要	<p>地域との連帯をテーマに今津公民館を拠点とした今津学区まちづくり推進委員会や地元の小学校・中学校・大学との連携をとり、リーダー育成を含めた中学生・大学生の地域への参画とともに、地域ぐるみの感動体験を企画・実施した。小学生から大学生・地域ボランティアスタッフを含めた幅広い世代での感動体験を共有することで、故郷への誇りと愛着を育み、一人ひとりの輝きを大きな輝きの輪に広げていき、それぞれの持つ経験・特長・個性を地域に還元していきたいと願う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チアダンス定例活動・インターネット学習会 ・自然丸ごと体験合宿・カヌー体験 <p>実施時期：2016年4月～2017年3月通年 福山市今津公民館他</p> <p>参加人数： チアダンス定例活動・ステージ出演・パレード他延べ 920 人、インターネット学習延べ 75 人、合宿延べ 60 人、カヌー体験延べ 100 人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,210 名</p>	



5月ばら祭りパレード参加



6月ほたる祭



7月カヌー体験



大学生とインターネット学習会

実施に伴う効果

チア衣装を全員に購入できた事は、遊友クラブの子どもたちに一体感を与え、やる気を高揚させ、ステージ・パレードを盛り上げた。また大学生のリーダーに指導してもらえた事は、中学生の参加にもつながり、今後のチアダンス活動にも大きな影響を与えた。

インターネット学習会は地域への情報発信までには至らなかったが、大学生と地域の交流として、よい体験ができたので今後の可能性に期待したい。

「有原ほたる祭り」にホタマンと共に遊友クラブでステージ出演し、地域ぐるみの交流を深めた。また森や河原の中で、巨大なクリスマスツリーのような光のファンタジー(ほたるの乱舞)を初めて体験した。翌日は森の散歩道(植物観察)・クラフト・森のコンサートなど、仲間と共に多くの感動を分かち合うことができたことは大きな成果となった。

1年生～中学生・保護者まで、一人乗りカヌーを楽しんだ。水に浮かび、思い通りにカヌーを操るのは難しいと思われたが“習うより慣れる”体で感じて何度もカヌーに挑戦し、風を切って夢中でカヌーを操る姿が見られた。

ネイチャーゲームでは「はっぱじゃんけんJ」「同じものを見つけよう」など、家族で五感を使って河原の自然に触れ、新たな発見や驚きを親子で共有することができた。

苦労した点

チアダンス活動で、今まで毎月土曜日午前中の活動だったが、中学生や大学生をリーダーに指導依頼していく際、授業・クラブ活動・バイトなどいろいろな予定を配慮しながらの日程・時間の調整が難しかった。結果的に土曜日夕方 16時～17時での活動となったが、冬場は暗くなるのが早いので1人で来る子どもたちの帰りが心配でもあった。

インターネット学習も大学生と日程調整するのが難しく、なかなか予定が立たず不定期の学習となった。地域の参加者は、インターネットの検索の仕方からのスタートで、地域への情報発信フェイスブックやホームページ作成まではいかなかった。

今後の課題・発展の方向性

チアダンス活動に、中学生や大学生が加わったことで、憧れのチアダンスが身近な存在となり小学生の子どもたちの意欲も高まってきた。この状態を継続していきたいが、大学生・中学生の状況が常に化するなかで、遊友クラブの子どもたち(小学生)の充実したチアダンス活動とともに、これからのリーダーをどう育てていくかが課題となる。

遊友クラブでは、親子で感動体験を共有することを基本に、合宿・カヌー体験・スキー体験などを地域ボランティアスタッフも含め活動している。この体験が、故郷を愛する気持ちにつながり、地域を支える大人に成長してくれることを願う。

活動を終えての感想・意見等

マツダ財団の支援により、充実したチアダンス活動に取り組むことができた。バラ祭りでのローズパレードでは「チャーミー賞」をいただくことができ感激でした。学校と地域連帯を深めるため、地域ぐるみの感動体験を支援していただき、世代間で大きな感動を共有することができました。かけがえのない体験を支えていただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

活動名	団体名	広島思春期問題研究会
広島思春期問題研究会およびふれあいの会	地域	広島県広島市
	代表者	会長 湊崎 和範
	支援金額	15万円
活動概要	<p>あたたかい雰囲気と専門性の中で行われる様々な活動を通じて、集団での傷つき体験がある子ども達が集団の楽しさを体験することを目的として、また、その体験が学校や社会参加へのステップとなることへの推進を目的とした活動。対人関係に困難を抱えているが、集団参加への準備段階にある思春期の子どもたちを対象に、年3回の定例行事（ふれあいの集い・ふれあいハイキング・ふれあいサマーキャンプ）を行う。</p> <p>スタッフは様々な年代の専門家・学生・社会人のボランティアで構成される。共に研鑽しながら子ども達に関わることで、主体性のある人材を育成することも目的とする。</p> <p>実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定例行事： <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいハイキング（5月に南区地域福祉センター 比治山公園にて） ・ふれあいサマーキャンプ（8月に広島市野外活動センター こども村にて） ・ふれあいの集い（2月に広島福祉センターにて） ● 定例会・行事の準備会・ふりかえりの会： <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、場所：東区地域福祉センター・南区地域福祉センター・県立総合体育館 <p>参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定例行事： ふれあいハイキング 準備会:14名、当日:参加児8名・スタッフ36名 ふれあいサマーキャンプ 準備会:14名 当日:参加児7名・スタッフ27名 ふりかえりの会 :8名 ふりかえりの会 :10名 ふれあいの集い 準備会:10名 当日:参加児15名・スタッフ31名 定例会 6月:13名 11月:20名 1月:5名 参加総人員 218名（スタッフ188名・参加児30名） 	



ふれあいサマーキャンプ 集合写真



ふれあいサマーキャンプ 班で話し合ったスタンツ決め



ふれあいの集い コラージュ作成



ふれあいの集い コラージュ作成

実施に伴う効果

● 参加児に対して

ふれあいサマーキャンプでは、キャンプファイヤーで披露するスタンプを決めるため、一人ひとりの子ども達が班で意見を出し合い、悩みながら意見をまとめていった。他の班の参加児・スタッフの前でドキドキしながらも一生懸命発表することができ、子ども達の生き生きとした様子を見ることができた。

「次回の行事も参加したい」という手紙が届いたことや、「またこの会で会おうね」と参加児同士で話している様子を見ることができたことなど、続けて来てみたい思いが伝わってきた。また、日常の場面でも少し自信を持てるようになったとの報告を聞いている。

● スタッフに対して

行事体験を通して、集団で傷つき体験をした子どもたちに対して、どのような関わりが必要なのかということや、グループ活動の中でどのような気持ち動いているのかを考えることができた。

「今後も一緒に子どもたちに関わる支援をしたい」や「普段は関わらない年齢の子どもと関わることができ、今、日常で関わっている子どもの成長について改めて考えることができた」など、積極的に子どもたちに関わりたい思いが伝わってきた。

苦労した点

● 外部への PR の仕方

新しいスタッフを獲得するための外部への PR が不十分で、新しいスタッフの方を十分に集めることができなかった。PR をどのようにしていくことが良いのかを考えることが必要だったと思う。

● スタッフに継続して参加していただくこと

学生をはじめとする若いスタッフに継続して参加していただくことが会の発展につながると考えている。参加児は継続した参加が多いが、新しいスタッフがなかなか定着しない現状がある。子どもに関わる楽しさ・喜びをもっと知っていただくことや、不安に思っていることに一層寄り添っていくことが必要だと思う。

今後の課題・発展の方向性

● 人材育成

当会は、30 年継続してきており世代交代の時期を迎えている。それぞれが新たな役割を担っていくことができるよう、スキルを上げていくことが望まれる。また、新しいスタッフを仲間に入れ、会として発展していくことが必要だと考えている。

● 外部への PR

チラシ・HP 等の外部への PR ができる手段を構成していき、また広報活動を行っていくことで、より多くの人にこの活動を知っていただく機会を作っていくことが必要だと考えている。

● 資金面

資金運営についてより参加児の支援、また、スタッフの意欲向上につながるような使用方法を検討していく必要があると考えている。

資金援助が得られなかった場合、参加費を上げて対応することになる。スタッフにはボランティアで参加していただく会であり、参加費が高くなることでスタッフ不足が懸念される。継続して参加していただき、より多くのスタッフに来ていただけるよう、資金面を安定させていくことが課題だと考えている。

活動を終えての感想・意見等

今年度も、年 3 回の定例行事は参加児の生身の変化を感じられる大切な機会であった。また、定例会などは、定例行事での参加児の変化をより理解するための大切な場だったと感じている。

今後も継続してこの活動を続けて行きたいと考えている。活動を継続していくためには、多くの人々の支援や実際に参加していただくことが必要だと考えている。

人とのつながり・ネットワークを広げていくための活動も継続的に行うことで、より多くの人に当会を知っていただきたいと考えている。

活動名		団体名	特定非営利活動法人みよし子育て学び支援あすなる
限界集落の寺院と連携した現代の寺子屋復活		地域	広島県三次市
		代表者	理事長 松本信司
		支援金額	30万円
	活動概要		
<p>過疎地の寺院・自治振興区と連携した寺子屋活動</p> <p>作木町伊賀和志「蓮光寺サマースクール」 里山学びネットワーク</p> <p>7月23～24日、天神川（江の川支流・ブッポウソウの生息地）のそばにある蓮光寺で開講。あすなる元気教室（子どもの居場所）生徒・保護者・ボランティア・理事 30名が「三江線に乗って作木の川で遊ぼう」のテーマで参加して交流。</p> <p>十日市中「西覚寺こども寺子屋塾」 里山学びネットワーク</p> <p>8月18日～19日2日間。小学生11名を対象にあすなるより指導講師を派遣。</p> <p>夏休みの宿題・研究を中心に学習。</p> <p>12月25日～26日（月）冬期講座を開講、20名。あすなるより指導講師を派遣。</p> <p>庄原市総領自治振興区「あすなる高校受験特別講座」 里山学びネットワーク</p> <p>8月8日（月）～10日（水）高校入試講座。中学3年8名 理科・社会科。</p> <p>12月26日（月）～28日（水）高校入試講座。中学生6名 理科・社会科。</p> <p>実施時期 夏期 7月23日～8月19日までの7日間。冬期 12月26日～28日までの3日間。</p> <p>参加人数</p> <p>蓮光寺サマースクールかっぱ道場作木 あすなる関係30名、かっぱ道場作木6名、蓮光寺関係36名 小計72名</p> <p>西覚寺子ども寺子屋塾 夏期10名、冬期20名 小計30名</p> <p>庄原市総領自治振興区 夏期8名、冬期6名 小計14名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 116名</p>			



三江線に乗って作木蓮光寺へ行こう



西覚寺冬期講座。小・中学生が20名参加



天神川 500mクリーン作戦みごと完了！



過疎のすすむ総領町夏期・冬期講座

実施に伴う効果

蓮光寺サマースクールは大盛会。今後はお寺での学力支援も考えていきたい。
西覚寺子ども寺子屋塾は住職・坊守・副住職と寺をあげて取り組みが行われた。
総領会場は先生・保護者から高い評価を得た。今後は総領町の寺院との連携も図りたい。
過疎地の後継者づくり・寺院の門徒育成の試みとして社会的な評価を得た。

苦労した点

限界集落寺院・自治会と連携した現代の寺子屋復活

- 「所得格差と学力格差」の課題から出発した当法人は、過去 5 年、貴財団を始め、地場の企業や市民のご支援のお蔭で一定の成果をあげることが出来ました。本年度は「地域格差と学力格差」の課題に目を向け、過疎地の 2 寺院・1 公民館（連合自治会）と連携して門徒・地域後継者の育成を目指して学力支援と体験活動の事業に取り組むことが出来た。

作木町蓮光寺・西覚寺と連携した寺子屋塾（1泊2日）の実施

- 蓮光寺は副住職を中心に門徒保護者・児童生徒 40 名。あすなるの指導者・保護者児童生徒 36 名がサマースクール（寺子屋塾）に参加した。今年度は特に三江線の存続運動が展開されていた時期だったので、あすなるは「三江線に乗って作木へ行こう」と呼びかけ好評を得た。
- 西覚寺は小学生を対象に住職・副住職・坊守がそろって指導に当たられ、「読経」「法話」「勉強」のプログラムで行われ、冬期講座は 2 倍の参加者となった。今後は他寺院への働きかけを強化したい。

過疎のまち総領町自治振興区と連携した学力支援講座の実施

- 総領町は 2 年前に自治振興区が小中学生の学力支援教室（国語・算数・英語・数学）を開設していたので、あすなるは中学 3 年生を対象に「理科」「社会科」講座を夏期と冬期にした。
- 地域の保護者・中学校教師から高い評価を得ることが出来た。なお、総領町自治振興会は本年度文部科学省大臣表彰を受けることが内定した。過疎少子化のまちの「若者育成」という共通課題に向けて今後も寺院・自治会との連携を図っていきたい。

今後の課題・発展の方向性

今後の課題

当法人の活動について、支援企業の三次衛生工業社の社長は「勉強だけでなく様々な活動があるのがいいですね。人として優れ、過疎が進む県北に腰を据えて頑張る大人になればいいですね。これからも応援させてください」と激励していただき、「三次衛生工業社のホームページにあすなるを応援していることを載せたい。社員の誇りになります」といっていただいた。

こうした皆様の善意を子どもたちに伝え、「善意の心を受け継ぐランナー」として育てることが、当法人の課題である。願うことは、子どもたちが家庭・学校・塾だけでなく、友達や自然と日常的にふれ合う場づくりを課題としたい。

発展の方向性

これまで当法人が德育指導の場として位置付けてきた「馬洗川クリーン作戦」、今後は地元の八次連合自治会・江の川漁業協同組合と連携した新組織として「江の川流域里川エコネット」の活動として取り組みます。学力支援事業は高校退職教員を塾頭に迎え内容の充実を期しています。

活動を終えての感想・意見等

おかげで「貧困による負の連鎖を断ち切る」ことを目的とした取り組みが広島県北の各所で行われるようになりました。当法人もこれまでの実績で一定の社会的評価をいただきました。今後は県北の各地に取り組みが拡がり、「点」から「面」となることを願っています。

今年度ご支援をいただいた「現代に寺子屋復活」の事業も、過疎地に種を蒔くことが出来たと自負しています。今後、行政にも働きかけ地元高校、県立大学等と連携し里山を担う若者を育成するネット化を目指しています。本当にありがとうございました。（前理事長 黒田明憲）

活動名		団体名	切串おかげんさんまつり実行委員会
おかげんさんまつり		地域	広島県江田島市
		代表者	実行委員長 羽地 誠
		支援金額	25万円
活動概要	<p>・地域の伝統行事である「切串おかげんさんまつり」を開催</p> <p>・祭りで使用する麦わら舟を、地域の子どもから高齢者が一緒になって作成</p> <p>・併せて、使用する麦の育成・脱穀、麦刈りなども実施</p> <p>【目的】 子供たちに伝統行事を継承し、郷土愛を育む。 子供たちに作物の育てる体験をさせることで、自然との関わりを学ぶ。 地域内の世代間交流を深め、地域の絆を深めていく。 地域の伝統行事を市内外に積極的にPRし、都市市民との交流拡大を目指す。</p> <p>実施時期 2016年7月16日(土) 切串うどん橋周辺(広島県江田島市江田島町切串)</p> <p>参加人数 麦刈り・脱穀 = 60名 はかま取り = 30名 舟づくり = 70名 舟飾り = 40名 第44回切串おかげんさんまつり = 1,100名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,300名</p>		



夕暮れの長谷川



長さ50センチ前後の麦わら船約80隻を用意



両岸には大勢の見物客



ステージ

実施に伴う効果

施設の老朽化に伴い実施に不安があったが、伝統的な祭りを継続できた。
高齢者や子どもを支え・見守るという意識が地域内で醸成された。
高齢者や子どもが主役となることで、生きがいや自信づくりに繋がった。
子どもや保護者が高齢者の持つ技能に触れ、世代間の交流が図れた。

苦労した点

施設の老朽化対策、来場者の安全確保。
(今回は、貴会の支援により仮設ステージを設置することで対応できました。)
地域の特性を生かし、魅力的で多くの来場者に楽しんでいただけるイベント内容を企画すること。
お祭り当日のスタッフ集め。

今後の課題・発展の方向性

【今後の課題】

- ・施設の老朽化対策が必要であり、その更新費用を捻出すること。
- ・市外からより多くの来場者をお迎えできるような取り組みとすること。
- ・地域の伝統を継承していくこと。

【発展の方向性】

- ・行政や地域と一体となり、施設の老朽化対策について検討する。
- ・地域の魅力や特徴を生かした取り組みを展開する。
- ・若者から高齢者まで、これまで以上に多くの人に携わってもらえる体制を整備する。

活動を終えての感想・意見等

今年の祭りでは、イベントの中心となる「ステージ」の位置等を変更したため、大変なプレッシャーの中での開催となった。しかしながら、今回の新たな取り組みにより、実行委員会の結束や自信が深まり、貴重な経験を積むことができました。

今後とも、魅力的で地域内外の方に喜んでいただける活動を展開していきたいので、ご指導をお願いいたします。ご支援ありがとうございました。

活動名	団体名	まるごと府中実行委員会
地域とこどものアイデアいっぱい青空カフェ	地域	広島県安芸郡
	代表者	実行委員長 力 淑子
	支援金額	25万円
活動概要	<p>1. 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 世代間・他学年との交流 もてなす心や相手の気持ちになって考える力の育成 責任感や達成感を味わう 地域の支援者や個人商店との連携 地域で見守る体制作り コミュニケーション能力・言語スキル・表現力の育成 <p>2. 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生と地域支援者とのカフェの運営 地域支援者・個人商店との合同プログラムの実施 小学生運営委員会（仮称）の実施 <p>3. 社会的背景・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の低下 地域社会に触れるきっかけの減少 課題に直面したときの解決能力の低下 相手に対する思いやりやもてなす気持ちの希薄化 地域で見守る体制作りの弱化 家庭・学校以外で我が子の姿を見る機会の減少 失敗や様々な経験から学ぶ機会の減少 <p>実施時期 2016/7～2016/12 参加人数 募集小学生：17名、支援者：16名、参加（お客）者：765名 参加総人員 798名</p>	



いざ！開店！！



カフェクリスマス仕様



カフェ体験



ドリップ体験

実施に伴う効果

バンビーズで以前よりカフェをしていた中高生に違う形のカフェ運営をみてもらうことで改めて自分たちがやりたいカフェ運営は何かを見直すきっかけになった。
学校の先生、地域の大人の方に普段と違う姿を見てもらい新たな一面を見るきっかけになった。
同様の活動をバンビーズの事業にて継続実施することとなった。
地域の一人暮らしのご年配の方の居場所になり感謝された。
外国籍の方が来られた時もととても丁寧に対応したことで次回も遊びにこられた。

苦労した点

予算が思った以上に足りない現状があり、無償ボランティアや材料の格安販売など多くを地域の方に助けていただいた。
応募者が予想以上に多くニーズの高さが伺えたが選考に苦労した。その結果、予定人数よりも多く受入れた。
参加した子どもたちは、学校が違い学年も違った。当初は、共通目的を持って進めることが難しかったが、回を重ねることでわだかまりもなくなり、のびのびと自由な発想が出せた。
予算の関係で十分に子どもたちのアイデアを取り入れることができなかった。違う視点からワークなどを実施すればよかった。

今後の課題・発展の方向性

今後の課題

運営するという事は予想以上にお金がかかることが分かりました。改めて単独実施は、難しいと感じました。飲み物の単価も小学生が一人で出せる設定にしたこともあり、出れば出るほど赤字になる現状でした。価格は子どもたちと話し合っただけで決めたことなのでできるだけ変えないで周りの大人でそこはどうかまいしょうということになりました。他にも多くの支援者と当日の協力者が必要になるので今後の実施には、今回以上の協力者が必要になると予想される。

発展の方向性

この度の助成にて必要な機材を購入させていただいたのでバンビーズさんにて 29 年度に継続実施をしてくださるとのこと。また、中高生と一緒に進めていけるようでさらに広い範囲で展開が予想されます。私たちもできる限りのお手伝いできればと思っています。

活動を終えての感想・意見等

このプログラムに助成していただきありがとうございました。私たちは何かのプロでもない専門家でもない地域に住んでいる普通のおじさんおばさんです。その中で今の子どもたちに何が出来るか何が必要なのかと考えた結果、カフェをツールとしたプログラムを実施が思いつきました。すぐに賛同してくださる方々が集まりプログラムを考えましたが、予算が…。その中、助成が決まり実施することができました。参加してくれた子の個性も様々で職人のように珈琲を入れる子や一度にたくさんの注文を受けることができる子。また、チラシや看板を作るのが得意な子、下の子たちの面倒をよくみってくれる子、他の子が嫌がる仕事を進んでおこなう子など多くの個性に触れることができました。同世代の子からも「大人みたい!」「かっこいい!」「私もやりたい!」など多くの声をもらいました。もちろん他の保護者からも継続の声や「今度は幼児さんも!」という声も頂きました。私たちができたことは小さなことですが、枝が分かれるように広まってもらえればと思っています。最後にこのような機会を下さったマツダ財団に感謝するとともに他の団体さんの活動が充実したものになるよう願っております。

活動名	団体名	大道山竹炭工房
子供達が竹細工づくりでおもてなし（竹杖・竹寿司巻き・篠笛等を作って、地域のお年寄りなどにプレゼント）	地域	広島県東広島市
	代表者	代表 今井 邦夫
	支援金額	25 万円
活動概要	<p>当工房では平成 19 年より竹炭窯を活用し、年 6～10 回子供達に竹炭・竹酢液・竹塩づくりなどで、ものづくりの楽しさやそれを売ることを体験して頂いてきました。このたび、これまでの体験学習をより効果のあるものに発展させることとし、地元には多くの種類の竹（孟宗、真竹、女竹、布袋竹）があることに注目しました。布袋竹を使った「杖作り」、真竹を使った「竹トンボ・バランストンボ・竹寿司巻き作り」、女竹を使った「篠笛・水鉄砲作り」など人が貰って喜ぶものを作ることを子供達に体験して貰い、その作品を地元のお年寄りなどにプレゼントすることを計画しました。こうしたことを実施することにより、「ものづくり」を通して、子供達に「人にやさしくすることの喜びや大切さ（おもてなしの心）」を感じて貰い、生徒全員が「日本一、思いやりのある巧みな小学生」になるよう支援するものです。</p> <p>実施時期：2016/5/20、6/24、7/26、9/20、10/28、11/22、2017/2/17</p> <p>参加人数：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大道山竹炭工房（今井、小田、永岡） ・河内小学校（教諭：2名、生徒：18名） ・その他 <p style="text-align: right;">参加総人員 156 名</p>	



第 2 回竹トンボ プレゼント



第 4 回バランストンボ完成



第 5 回竹炭火入れ



第 7 回篠笛完成

実施に伴う効果

- 子供達が色々な道具を使うにあたり、今年度特に気を付けたことは、プログラムの順に道具の難易度をあげていったことです。道具としては鎌、鋸、鉋、ナイフ、錐、竹割器、竹細工工具、電動ドリル、ルーター、サンダー、サンドペーパー、木工ボンド、瞬間接着剤など多くの道具を使いましたが、その結果、3・4年生とも、物おしせず怪我もせず、1年間で何でも使いこなすようになりました。特に竹トンボやバランストンボでは、ナイフで竹を長時間削るといった作業でも一生懸命取り組んでいて、根気強さがついたのではと思っております。
- 学習面では、竹の種類、竹炭・竹酢液の出来る原理、バランストンボでのバランスの取り方、竹トンボや凧の飛ばす原理などを体で習得し、教科書には無い知識を学ぶことが出来、理科への関心が高まったものと思います。
- 作るだけで自己満足することなく、人にプレゼントすることにより喜んでもらう「おもてなし」の心がつくとともに、上級生・下級生や家族とのつながりも深めたものと思われ、生徒全員が「日本一、思いやりのある巧みな小学生」になったものと信じております。

苦勞した点

- スタッフの高齢化により、今年度は誰かが病気や怪我をしている状態が続き、下準備での人員不足が発生したことから、アルバイトを多く活用するためになり、資金面で大変苦勞しました。
- 各プログラムが終了毎、ホームページに出来るだけ早くアップするようにはしていましたが、小学生に教えることに集中し、写真撮影を怠っていたため、小学校教諭から写真を頂いて構成を考えるなど、余分な作業が増え、労力を要しました。出来れば専属のカメラマンが欲しいと思っております。

今後の課題・発展の方向性

- 活動を維持・拡大するには、ボランティアで活動してくれるスタッフの増員や後継者育成が大きな課題となっております。
- 工房の屋根が小さく、また作業台も狭いため、天候が雨の場合、生徒18名と先生2名、当工房スタッフ3名が入るとぎりぎりとなります。ナイフなど刃物を使用するには危険なため、小学校での活動となりました。今後は、子供達が工房での体験学習を楽しみにしていることを考慮し、資金調達を図り、屋根、作業台・椅子などの設備充実をしていきたいと考えております。
- これまでは河内小学校との連携事業として活動してきましたが、今後はもっと対象地域を広げた「竹炭づくり・竹細工づくり体験」を一般市民に募集をかけ、夏休み等において実施したいと考えております。

活動を終えての感想・意見等

- 毎年、子供達に楽しく体験学習をしてもらうよう、事前試作などして制限時間内で全員が完成できるようにするには大変な労力を要しております。ですが、こうした苦勞も、子供達の完成した時の達成感のある笑顔を見ると、逆に元気を貰えるなど、出来るだけこの活動を継続しようという気持ちになります。
- 子供達にとって、工房での楽しい体験が思い出として心に残れば、「大人になっても河内に居たい!!」といった気持ちにも発展することも考えられ、河内の過疎化防止に多少なり貢献出来ているのではと思っております。

活動名		団体名	広島県担い手同志組合 おもろい農!
援農ボランティア事業		地域	広島県竹原市
		代表者	会長 山平 忍
		支援金額	30万円
活動概要	<p>援農ボランティアを中心として広域展開（現在は東広島市・呉市・竹原市）を行っております。また広島大学農業サークル「田口虫」と連携して援農作業の受入や、広島大学生物生産学部の現地実習などの受入を行っています。広報活動も広島県が管理するフェイスブック「地域の宝」などに掲載して頂いております。</p> <p>【活動の目的】 持続発展可能な農業体系を構築するため、地域住民を巻き込んだ活動を行っていく。特に援農ボランティアを通しての活動をメインに行う。</p> <p>【内容】 H23年12月より東広島市において始まった援農ボランティア制度で 今後は拠点を拡大させ呉市・竹原市でも事業を執り行う。 他に例を見ない特徴としてはボランティア作業時に専門家が随行し技術指導を行う。</p> <p>【援農の流れ】 援農ボランティア作業前に10～15分程度の専門家による講習会</p> <p>実施時期 年間60日程度 参加人数 会員約100名 + 今回の活動で40名</p> <p style="text-align: right;">総参加人数 140名</p>		



収穫時には、お土産があることも
このときはなんとハウスせとか

嬉しいお土産



休憩中、みんなで仲良くかんきつの試食会

休憩中のひと時



学生も現地でみかん収穫体験

収穫体験



青空のもと、みんなで楽しくみかん収穫中

収穫風景

実施に伴う効果

特に収穫労力の足りない東広島市内の農業生産者から非常に喜ばれており、現在は主に広島沿岸部での活動ですが、今後は県内全域に活動を広げていければと考えております。広島大学の学生「農業サークル田口虫」も毎回参加してくれるようになり、更にその裾の尾が広がっていることを実感しております。

苦労した点

生産者からの要望もあり、援農活動日を増やそうと計画しておりましたが、当日現場を案内するスタッフが不足しており、今後はベテランの援農ボランティアさんに現場を案内する役も担って頂く予定です。

今後は援農できる箇所を更に増やしていきたいと考えております。

今後の課題・発展の方向性

おもしろい農！はJA・行政・一般市民・生産者など様々な機関と連携を図り新規就農者の生活安定を図り、持続発展可能な農業体系の構築サポートを行っていきたいと思います。特に援農ボランティア制度についてはどの地域でも展開することが可能で、活動の拠点を増やしていきたいと考えております。

活動を終えての感想・意見等

今回マツダ財団様に助成頂き誠にありがとうございました。
チラシ配布により様々な方におもしろい農の活動を知って頂くことができました。

今後とも様々な機関と連携して、継続して援農ボランティア活動を中心として続けていきたいと思っております。

活動名	団体名	市民グループええじゃん(Asian)
親子ユニバーサル図書館 (通称:みどりの森 親子図書館)	地域	広島県廿日市市
	代表者	代表 栗林 克行
	支援金額	20万円
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がいのある子供や外国人の子供にも呼びかけ、親子で気兼ねなく読書し、交流し、のびのび遊べる場を提供するため、毎月1回、自然豊かな保育園の園庭とホールをお借りして継続実施した。 ● 寄付頂いた絵本・図鑑・紙芝居等約600冊に加え、はつかいち市民図書館から団体貸出(200冊まで)を受け、分類・整理の上、同保育園に管理委託して開催日ごとに展示し貸出した。 ● ホール内では、図書の閲覧の他、読み聞かせ、ゲーム、クラリネット演奏も行い、園庭では、素足で砂山に登り、井戸水を汲み、小屋に入り「かくれんぼ」したりした。 ● 野猿と毒虫に注意させ、危険箇所も教えたが、応急措置の準備もした。 <p>実施時期 2016/4/1～2017/3/31 (おおむね第三日曜日の9時～12時)</p> <p>参加人数 31名 小学生(5) 中学生(1) 大学生(1) 成人女性(13) 成人男性(11) 参加総人員 178名</p>	



いざ開館 親子図書館



サア!砂山に登ろう!



雨の日曜もホールでのびのび



親子図書館看板

実施に伴う効果

- 会場を提供して頂いた保育園には大変お世話になった。迷惑も掛けたが、同園の園児にとっても多数の絵本等を見ることが出来、同園の魅力が地域に口コミで広がることに好感を持って頂いた。

苦労した点

「予算」について

- 補助は単年度で終わるため、後に繋がるシステムを構築したかったが難しかったです。

「外部へのPR」について

- 地元の西広島タイムズ紙に毎回投稿し、毎回掲載して頂けたことは幸いだったが、他のPR手段がなかった。支援者の住所地のスーパー等にはポスターを掲示してもらったが、会場周辺地域町内会等に周知出来なかったのが残念。

「参加者」について

- 「親子図書館」がターゲットにしている外国人家族に情報そのものが伝わっていない。彼らは新聞をあまり読まない。(もっと早くからSNS広告の準備をすべきだったか?) そのため、平素から付き合いのある在住外国人が周りに声掛けしてくれた程度の参加が中心となった。
- 他方、参加してくれた日本人家族にも問題があった。彼等には、これが何のための企画なのか判らず、要は、環境のよい新設保育園の魅力を宣伝する企画か? 程度に思われた節がある。
- 特に我々の期待に反したのは、集まった親子がそれぞれに位置決めして座り込み、他の家族との交流に消極的で、専ら、我々スタッフのゲームや働きかけにお客様として入るだけであったことで、この誤算は、我々の考えの甘さによるものと言わざるを得ない。

「地域の理解」について

- 市民活動センターに関係している地域住民グループにも働きかけ、野外演奏等でコラボしようとしたが、実現せず、当の会場周辺住民に十分理解して頂くところまでいかなかった。

今後の課題・発展の方向性

「反省点」

- 初顔合わせからいきなり他の家族との交流が進み、次のステップへ向かうはずと思う方がオカシイ。ノウハウもないのに何もかも一気にやろうと欲張り過ぎた。学校でも地域でもない断続的コミュニティで出来ることを見極め、新たな構想と準備の下に再度チャレンジしたい。

「改善点」

- 公立図書館の親子教室にはない長所(走り回っても、奇声を上げて叱らない等)があるのだから、それをもっと強調してPRすべき。
- 毎回テーマ設定して、同伴している大人にも役立つ子供向けの社会勉強をしたい。親子が参加出来る場を作りたい。例えば、「人生ゲーム」はフィリピン人児童はとて熱心に競い合って取り組んでいたが、そこで出てきた、結婚とは? 保険とは? 交通事故に遭うとどうなる? というような話題を分かりやすく説明したい。
- 陽光台の図書館は自然豊かではあるが、町中から少し離れているので、新たに町中にも図書館作りを考えたい。そして、障がい児と外国人子弟のための子供学習塾に親子図書館併設という夢も現実に近づけたい。

活動を終えての感想・意見等

貴重な体験が出来、感謝しています。

活動名	団体名	NPO 子どものひろばヤッチャル
にじいろキャンプ2016	地域	広島県東広島市
	代表者	代表 間瀬 尹久
	支援金額	30万円

活動概要

NPO こどものひろばヤッチャル（東広島市）が主体となり、安芸高田市、呉市、福山市からの参加者と合同で、外国につながる子どもたちの宿泊活動（1泊）を行った。言語、文化、学習、生活など様々な困難を抱える子どもたちが、お互いの経験を共有し仲間意識を醸成することで、日本社会で生きていくための『力』を得ることを目的とした。大人主導ではなく、子どもたちが自主的に関わられるように、東広島市の子どもたちを中心に実行委員会を立ち上げた。実施した活動は、カヌー訓練、造形活動（消しゴム作り）、スポーツ（バスケットボール）、盆踊りである。プログラムの進行、活動間の振り返りもすべて子どもたちが行い、全体の活動をまとめあげた。大人も子どもも寝食を共にしながら、多くの語り合いをもつことができた。キャンプ後は文集作り、東広島市外国人スピーチコンテスト参加（1人）など、全体を総括する活動を行った。

実施時期
 キャンプ：2016/8/20～21
 実行委員会 スピーチコンテスト：2016/6～2016/11

参加人数
 支援者：10人
 子ども：21人

（実行委員会，キャンプ，事後活動）参加総人員 176名



カヌー



消しゴム作り



食事風景



振り返り

実施に伴う効果

にじいろキャンプは 2014 年に始まったが、毎回、呉市、安芸高田市、福山市、東広島市の支援者が連携して運営している。連携体制は年々強化され、にじいろキャンプ以外にも広域的な活動に取り組んでいる。たとえば 2016 年 12 月 3 日に講演会(群馬大学結城恵氏)とワークショップ*を行った。小中学校教員、行政関係者、日本語教師、国際交流協会関係者など、多方面から外国につながる子どもたちの支援に携わる者が集まり、今後の支援の方向性を討議した。にじいろキャンプ関連 4 市以外に、竹原市、広島市に加えて、(公財)ひろしま国際センター(HIC)関係者の参加もあった。HIC 担当者はヤッチャルへの教材提供の可能性を示唆するなど、連携を図る土台作りになった。

*テーマは『外国につながる子どもたちとともに～どう寄り添い、なにができるか～』。東広島市教育文化振興事業団、多文化共生マネージャー中国五県協議会の共催でおこなったが、運営スタッフはすべてにじいろキャンプ 2016 の支援者であった。

苦労した点

- 日程調整：4 地域の子どもたちに参加を呼びかけた。地域によって夏休みの行事（登校）日が異なり、安芸高田市の子どもたちが不参加となってしまったのは残念だった(支援者は参加した)。
- 外部への PR：福山市には外国につながる子どもたちをサポートする団体がないため、PR が難しかった。他の活動で日常的につながりのある知人を通じて勧誘した。
- 地域の理解：カヌー体験を実施した地域（東広島市黒瀬町丸山）は、住民の希望により大型バス乗り入れが禁止されている。自家用車でのピストン輸送を行うなど、大人数の移動に関して地元地域の迷惑にならないように注意を払った。
- 宿泊施設及び予算：東広島市には市立の宿泊可能な研修所や、この活動に適した野外キャンプ場が少ないため、ひろしま国際プラザを活用することになった。そのため費用がかさんだが、支援を受けたことで子どもたちへの影響はなかった。

今後の課題・発展の方向性

にじいろキャンプは、ワールドキッズネットワーク（呉市 2014）、安芸高田市国際交流協会（2015）、NPO こどものひろばヤッチャル（東広島市 2016）の順に主催し、今年が 3 回目であった。来年開催予定の福山市には団体はないが、現在開催を検討している。今後も持ち回りで開催していく予定である。この活動が、この 4 市にとどまらず、広島県内や近隣県に広がっていき、同じ境遇にある子どもたちの相互理解や連帯の場となるよう、息の長い活動をしていきたいと考えている。

当団体では、新たに『子どもたちの将来を切り開く第一歩となる活動』を考えている。にじいろキャンプは、子どもたちが仲間を作り自己肯定感を醸成することで、日本で生きていく力を養う活動であった。その力を蓄えつつある子どもたちが、次に必要とするのは将来設計のサポートである。外国につながる子どもたちは、日本語の壁、自分を取り巻く社会（人間関係）の狭さもあり、将来設計に関する情報を得るのが困難である。日本にどのような仕事があるか、自分はどのような仕事がしたいか、どうすれば就職できるかなどを考える機会をもち、日々の生計に目が向きがちである。そこで外国につながる子どもたちが、自分自身で将来設計ができるようなサポートを行いたいと考えている。

活動を終えての感想・意見等

日本語が不十分な子どもたちが生き生きと活動し、自分をさらけ出すことができたのが、いちばんの収穫である。他地域の仲間との交流で、新たな人間関係をつくり、情報交換も活発に行われた。

呉市の支援者からは、キャンプ後、参加者のひとりが夏休みの宿題を終了させたという報告があった。その子にとって人生初体験であったという。その子は、呉市での通常活動でも活動的になり、リーダーシップを発揮するようになったとのことであった。

にじいろキャンプ 2016、にほんごひろば U18（教科学習、日本語学習支援。当団体ヤッチャルメンバーが支援を行う外国につながる子どもたちの学習教室。2010 年開始、現在まで継続して活動。2013 年にマツダ財団の助成受託。）を通じて子どもたちが着実に成長していること、支援者の輪が広がっていることをうれしく思っています。少子高齢化の進む日本で、外国につながる子どもたちは、地域社会の中で大切な存在になると確信しています。今後も多くの人々に、外国につながる子どもたちを理解、支援いただけるように働きかけていきたいと思っています。御支援よろしくお願い致します。

活動名 教えて！赤ちゃん先生 ～わたしもあなたも大事な命～	団体名	ママの働き方応援隊 広島東校
	地域	広島県安芸郡
	代表者	代表 高田 裕美
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>いじめ予防や自殺予防を目的とし、小中学生に対し、実際に赤ちゃんに触れ合い、赤ちゃんの母親から生まれたときの話などを聞く授業プログラム「赤ちゃん先生クラス」を定期的・継続的に提供する。</p> <p>各授業においては赤ちゃんが先生（＝赤ちゃん先生）であり、母親は赤ちゃんの持つ共感力を引き出す役割（＝ママ講師）を担うのが特徴である。授業では小中学生に10人ほどの輪になってもらい、その輪の中に赤ちゃん先生とママ講師が1組ずつ入り、赤ちゃんを抱っこしたり一緒に手遊びをするなどのふれあい体験や、毎回テーマを決めてのグループトークを行う。</p> <p>実施時期 2015年5月～2016年3月（期間中各学校にて5回開催）</p> <p>参加人数 府中南小学校（児童約110名） 津田小学校（児童約20名） 廿日市中学校（生徒約170名） 賀茂川中学校（生徒約60人）</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 約360名</p>		



赤ちゃん先生紹介



児童との触れ合い



赤ちゃん先生退場



集合写真

実施に伴う効果

開催校の先生方から「生徒たちの思わぬ変化を目の当たりにした」とご好評いただきました。例えば、他の児童・生徒たちに対して気遣いが見られるようになった。全体的に消極的で自分を出さない雰囲気だったのに、赤ちゃん先生に対しては心を開き、笑顔で対応している姿が見られたなどの声をいただいています。参観にこられた保護者からも、子供たちのこのような姿がみられて我が子のことを見直した、感動したと大変好評で、継続希望の声も上がっています。

苦労した点

できるだけ多くの学校に資金を配分できるよう、自己資金や開催希望校準備資金も含めてのやりくりで苦労しました。互いに資金が足りず、今回開催を見送っていただいた学校もあったため、今後は希望してくださる学校にはなんとかプログラムをお届けできるよう体制を整えたいと思っています。

今後の課題・発展の方向性

資金援助を検討してくださる企業様が現れていますが、まだ確定には至っているケースは少ないので、自走できる取り組みを目指して、今後さらにアプローチを強めて行きたいと思えます。ボランティアで類似事業を展開する団体の出現により、当方活動が阻害されている地域があります。怪我などの事故を起こしており、クオリティも低いため、混同されないようにしたいです。今年度はメディア取材が少なかったため、来年度はプレスリリースにも力を入れていきたいと思えます。

活動を終えての感想・意見等

今回貴団体の助成金に採択され事業を実施できたことは、当方メンバーや開催校にとって、自信につながる出来事でした。開催校の子供たちに命の大切さを感じてもらい、いじめ予防や自殺予防につなげることが目的の事業ですが、講師としてその運営に携わる母子にとっても、かけがえのない貴重な経験や地域・仲間とのつながり、自己肯定感をもたらしたことは言うまでもありません。また申請そのものや他団体とのつながりによって、当方の活動を見直すよいきっかけになったと思っております。あらためまして、このような機会と場を提供して下さり本当にありがとうございました。

活動名	団体名	NPO 広島発達支援の会リバシー
親子で遊ぼう会	地域	広島県広島市
	代表者	事務局長 三浦 一輝
	支援金額	25万円
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害のある児童（小学生）に対する、療育的視点を含めた活動 発達障害のある中高生に対する余暇活動支援 発達障害児の保護者に対する発達相談、教育相談 夏期休業中の障害児の療育キャンプ <p>実施時期 4月24日（比治山公園） 7月24日（二葉公民館） 8月20日～21日（グリーンヒル郷原） 10月23日（青崎公民館） 11月27日（縮景園、広島県立美術館） 12月18日（舟入公民館） 3月26日（青崎公民館）</p> <p>参加人数 小学生：25名、 中高生：19名、 社会人：8名 保護者：32名、 ボランティアスタッフ27名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 118名</p>	



8月 - キャンプ プログラム説明



8月 - キャンプ 花火の時間



11月 - 中高生の会 縮景園、広島県立美術館鑑賞



3月 - 卒業式

実施に伴う効果

関連する団体への影響は特にありませんが、活動全般を通して公共の場を利用したことにより、地域の方々の発達障害への理解促進のための一助となったことが考えられます。特にキャンプなどでは、一般の方々と同じ空間で食事したりするなど、互いの存在を確認しながらも共生することの重要性について体感することができました（近くの方々から“どういった団体ですか”などと声をかけられたりしました）。

また参加家族に対しては、発達相談や教育相談を通して、今後の子どもの社会における育ちに対する保護者の不安の軽減につながりました。

苦労した点

予算的には、財団の支援があったため、これまでと比べて負担が軽減されましたが、ボランティアを募るについては課題が残りました。広島近郊の大学に呼び掛けて学生ボランティアを募集したもののそれほど反響はありませんでした。

外部へのPRにつきましても、HPを開設していましたが、十分なPRとなったかどうかまで検証はできていません。HPに開設しているブログや掲示板の書き込みの様子だけを見る限りでは、それほどPR効果があったとは言い切れません。しかし、スケジュールの確認などに関しては保護者の利用があったと聞いています。

また、ボランティアに関しましては上記と関連するのですが、社会人ボランティアが中心となっているために、打合せのための日程調整や役割分担、業務確認等についてはかなり苦労することとなりました。

今後の課題・発展の方向性

今後は、ボランティアを募ることも重要ですが、参加する子ども達の年齢も上がってきており、活動内容を就労準備に向けたものに変化させていく必要があると思われます。その為には本団体だけの活動では限界があり、他の事業所や団体との共催を検討していくことが必要です。また、それに伴い、保護者のニーズも基礎的な教育から大学や専門学校への進学や就職へ変化してきており、それらを支援者が担うばかりでなく、保護者自身による支援の共同体（自助グループや保護者会等）の立ち上げを促進するようなことも重要になってくると考えています。

活動を終えての感想・意見等

子ども達の笑顔はもちろん、保護者の方々やボランティアスタッフにとっても学びの多い活動になったと思います。年間を通した活動や、宿泊を共にする活動は、子ども達の成長を感じる事のできるものでした。

中高生や、社会人になった参加者が、小学生の活動にボランティアとして参加してくれています。自分たちが人との関わりの中で支援に携わることは、仕事や勉強以外のやりがいとしての意味を持つとともに、彼らが思春期、青年期の荒波を越えていく上できっと役にたつものになっていると感じます。

なかなかボランティアが集まらず、支援者の充実が難しい課題ではありますが、団体内外での支え合いもあり、今年度も良い活動ができてのではないかと考えています。

活動名		団体名	ELCAP(エルカップ：Etajima × Local × Culture × Art × Philosophy)
江田島を基点としたアートと哲学による 青少年育成		地域	広島県福山市
		代表者	教授 上村 崇
		支援金額	25 万円
活動概要	<p>本活動では、アーティストと哲学研究者がそれぞれの特性を生かし、青少年の自己表現力と対話力を育成するイベントプログラムを作成、実行する。企画したプログラムでは、子どもたちがひとつのテーマについて哲学対話形式で語り合いながら、語り合ってきたなかで形成されてきた言葉やイメージを、子どもが個別に、あるいは集団で作品として創作・展示するアート活動を実施するイベント形式を採択した。また、イベントに参加する保護者も子どもたちとは別に哲学対話とアート活動に参加してもらった。保護者と子どもたちが別々に哲学対話とアート活動に参加することで、イベント参加後に家庭で保護者と子どもがイベント内容について語り合う家庭内対話の効果も生み出した。</p> <p>実施時期 通年で5度のイベントを開催</p> <p>参加人数 キックオフ企画 20名 準備企画 体験！哲学対話 20名 企画第1弾「オジサンを宇宙人にしよう」30名 企画第2弾「山賊のお正月」10名 ELCAP 企画第3弾「ドラムでアロハ！！」30名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 110名</p>		



「オジサンを宇宙人にしよう！」ポスター



子供たちと一緒に宇宙人を作りました



「オジサンを宇宙人にしてみよう！」



「ドラムでアロハ！」

実施に伴う効果

団体等に与えた影響としては、まず広島県内に哲学対話が普及・促進することに貢献したと言える。本活動には、県内の哲学カフェ主催者も参加しており、新たな哲学カフェの開催にも貢献している。地域・社会に与えた影響としては、地域の人々が「江田島で暮らすということ」「江田島で表現すること」について哲学対話を通して内省的に考える機会を提供できたことがまず挙げられる。また、活動概要でも言及したように、子どもと保護者でチームを分けて哲学対話・アート活動を行うことで、イベント終了後もイベントの内容を話題に、家庭での対話をうむ機会を提供できたという保護者からの感謝もあった。

また、マツダ財団への支援を明記した上で、本年度4月に全国学会でELCAPの活動内容について報告することで、全国的な哲学対話の実践に貢献した。

苦労した点

苦労した点は、なによりも企画会議である。アート活動は従来の江田島文藝局エルカの活動が継続的に開催されていたために活動の地盤があったが、哲学対話に関しては江田島に確固とした地盤がなかった。哲学対話の理解を得つつ、哲学対話とアートを融合させた活動を展開しなくてはならなかったため、参加者の子どもたちにもわかりやすく楽しく、しかし哲学的にも対話を深めることができるテーマをスタッフで考える企画会議が一番の苦労となった。

外部へのPRに関しては、Facebookを効果的に活用したため、さほど苦労もなくコストを抑えることができた。ただ、参加者への告知がFacebookとメール、公民館などでの告知であったため、年始など開催時期が家族行事などと重なった場合に、参加者を集めにくいという苦労があった。地域に関しては、活動場所である公民館も馬小屋美術館も、好意的に場所を提供していただくことができた。

今後の課題・発展の方向性

今後の課題は、江田島でこれまで通り哲学対話とアート活動を継続的に続けていくことである。また、昨年度開催した企画をコンテンツ化して、他の地域でも実施可能かどうかということを検討していくことも課題である。そのため、今後の方向性としては、江田島を起点としながらも、広島市・福山市・岩国市といった他の地域でも昨年度の企画案を実施していくことが挙げられる。また、昨年度のイベント参加者が小学生・中学生に限られていた。今後は、高校生や大学生などの青少年をターゲットにした哲学対話とアートを融合したプログラムを展開していくことが求められる。

活動を終えての感想・意見等

マツダ財団のご支援があってはじめて成立した活動です。ご支援本当に感謝しております。

本年度もご支援いただき、岩国市・広島市・福山市などの活動の領域を広げ、小学生・中学生だけでなく高校生や大学生に参加対象領域を広げ、さらにエルカカップの活動を充実したものにしたいです。よろしくお願いいたします。

活動名		団体名	NPO 法人 心豊かな家庭環境をつくる広島21
子どものための音楽プロジェクト		地域	広島県広島市
		代表者	理事長 岸房 康行
		支援金額	25 万円
活動概要	<p>1. 幼児の日常生活圏である園に出向き、園児の間近で本格的な生演奏・声楽を体験させる。</p> <p>2. 学生たちによるクラシック音楽を中心にした企画と演奏。</p> <p>3. 子どもたちとの会話・触れ合いを大切にしながら進行し、保護者・地域住民も参加する。</p> <p>4. 広島市のすべての保育園・幼稚園に今後 10 年計画で、本物の舞台芸術を届ける。</p> <p>5. 主催者（NPO 法人こころ）は地域の音楽大学の協力を得るとともに、資金調達・関係者調整、開催当日の運営などを行う日本随一の地域文化プロジェクト。</p> <p>実施時期：7 月から翌年 2 月まで</p> <p>参加人数： 幼児（園児）1,540 名、保護者 100 名、保育士（教諭）330 名、地域住民 80 名、学生（教員）40 名 参加総人員 2,090 名</p>		



舟入保育園で 大勢の観客



演奏者と園児



戸坂保育園で「こども夢コンサート」



「こども夢コンサート」出演者のみなさん

実施に伴う効果

開催園の職員や保護者から、旺盛な情緒形成期にある園児が、本格的な生の演奏を身近で触れ機会を得たことにより、子どもたちが感動し、楽器や声楽に興味をもつなど豊かな情操を育むことができた。また、家庭に帰り家族との会話が広がったと感謝された。

保護者、地域の未就園児の親子、地域の支援者、近隣の保育園の園児などの参加もあり、地域の交流につながった。

苦労した点

もっと多くの地域の方々に参加してもらいたいと思い、開催園からの呼びかけやポスター、ホームページでPRしたが、地域の方の参加者増につながらなかった。

活動を多くの方に認知してもらい理解を得るために、PRの方法などの検討が必要である。

今後の課題・発展の方向性

当該活動は、今後 10 年間で広島市のすべての保育園・幼稚園に出向き、幼児の日常生活圏である幼稚園、保育園で本物の舞台芸術を届け、園児に本格的な生演奏・声楽を体験させ、旺盛な情緒形成期にある園児の豊かな情操を育むことを目的としている。

幼稚園、保育園の現場からも、本格的な生の演奏・声楽に触れる機会がほとんど無く、園独自の開催も財源が無いので（難しいので）、子どもたちにぜひ機会をと立ち上げた活動である。

また、協力いただいている 2 大学の学生さんたちとの地道な活動であるが、広島子どもたちにはかけがえのない時間である。

目的達成の向け長期にわたり活動を実施するための経費は、当法人の会費収入だけでは賅えないのが現状である。

今後、外部企業等に当該活動をPRし、継続的な支援を得、安定した財源確保をすることが緊急な課題である。

活動を終えての感想・意見等

生の演奏・声楽を体験した園児たちのキラキラした目、笑顔、真剣に聴く姿、素直な反応……。毎回この姿を見るたびに、活動の意義を再認識します。

広島では、大人でもまだまだ生の本格的な演奏・声楽を聴く機会が少ない中、子どもたちから良い音楽に触れ、豊かな情操を育む機会を与える必要性を感じます。そしてこの子どもたちが大人になり、次のステップへと広げていってくださることを期待しています。

活動名	団体名	Eフロンティア
安佐北区落合東地区の小学生を対象とした大学生による学習支援	地域	広島県広島市
	代表者	代表 三崎奈美、村重朱音
	支援金額	20万円
活動概要	<p>金平学習塾 毎月の土曜日2回から3回、落合東地区社会福祉センターにて学習支援活動を行いました。小学4年生から6年生を対象とし、内容として授業と宿題支援を行いました。 授業は大学生が、学校の勉学へつながる身近な生活から得られる知識や発見を、授業を通して子どもたちに楽しく学んでもらいたいと思い、授業を考案し、実施しました。 宿題支援では子どもたちに学校の持参してもらい、分からないところを理解できるように支援しました。宿題が早く終わった子は問題集をコピーしたプリントに取り組みました。</p> <p>【イベント等への参加】 安佐南区ボランティアまつり（10月2日） 主に子どもを対象としてヨーヨーつりとスライムづくりのブースを出展しました。どちらのブースも子ども達に好評で、男女学年関係なく楽しんで取り組んでいました。 まちづくり市民交流フェスタ 11月19日、20日両日参加。楽器作りとパラシュートづくりを行いました。楽器づくりではストローで笛を、発泡スチロール皿や輪ゴムを使ってギターづくりをしました。パラシュートはナイロン袋を広げ、タコ糸と段ボールの重りを付けて飛ばしました。</p> <p>実施時期：毎月土曜日2回から3回 参加人数：人文学部教育学科、英語英文学科/ 法学部国際政治学科 参加総人員 10名</p>	



ボランティアまつり



まちづくり市民交流フェスタ



金平学習塾 授業風景



金平学習塾 宿題支援

実施に伴う効果

- 教員志望の学生にとっては教育実習の前段階として、子どもとの接し方や授業案を練る訓練になりました。教員を志望していない学生にとっても、普段の大学生活では得られないような、子どもとのふれあい・自分の地元ではない地域の人々との関わりといった経験を積むことができました。
- ボランティアまつり、町づくりフェスタにおいて、授業ではなくイベントという場での子どもたちとのふれあいは、予想外の出来事ばかりでした。その例として、スライムづくりでは子ども自身がスライムの粘着具合を変えようと工夫しており、楽器作りではストローの笛で新たな吹き方を考えた子もいて、子どもの発想力に驚かされました。
- また両イベントとも、多くのボランティア団体が参加していたので、他の団体の方と情報やノウハウを共有する機会がありました。
- 多くの人に私達の活動を知ってもらい、その地域でも学習支援をしてほしいという声を頂くことができました。また、他大学の教員志望の学生さんに興味をもってもらい、機会があれば学習塾の活動へ参加してみたいという声もかけていただきました。

苦労した点

金平学習塾での活動で苦労した点は2つあります。

1 つ目は授業を担当する際、「子どもたちがどのような授業をすれば楽しく学習してくれるのか」「興味をもって積極的に授業に参加してくれるにはどうすれば良いのか」等、授業構成を考えることでした。残念なことに来塾してくれる子どもが0人の日もあったので、団体内で改善点を話し合うことが多々ありました。

2 つ目は人員不足でした。10人で活動していくことは可能でしたが、毎月2、3回開塾するとなると、1ヶ月に2回以上の参加、2ヶ月連続で授業担当になるというような状況もありました。交通費が高むが予算を上回らないようにと、活動日の構成員の調整を行うことができました。

今後の課題・発展の方向性

大学内で人員を募集すること。

可能であれば、他大学の学生にも活動に参加してもらい、他の地域での学習支援活動も行うこと。金平学習塾と並行して、児童館での学習支援。

活動を終えての感想・意見等

貴財団によるご支援をいただけたことで、今までの学習塾の活動に加え、多くのイベントへの参加の実現、活動頻度の増大、新たな教材の購入など、昨年度よりも幅の広い活動ができました。それにより、この1年間の活動は大学生・塾生の子どもたちにとっても、以前とは異なる1年になったのではないかと思います。多大なるご支援ありがとうございました。

活動名		団体名	若者活動サポートセンター あおぞら
若者と本と地域を紡ぐまちかど図書館 『BOOK リンク』プロジェクト		地域	広島県広島市
		代表者	共同代表 秦野英子・増谷郁子
		支援金額	25万円
活動概要	<p>本を読むことは、論理的な思考を育むことにつながると私たちは考えています。私たちは、2014年8月20日以降、復興支援活動で私たちを支えてくれた学生たちが、気軽に、そして互いの顔が見える関係の中で本に触れる機会を作りたいと願い、その一助として、まちかど図書館をつくる活動を行いました。</p> <p>この活動では、本を新規購入して図書館を開くのではなく、一定のルールの下、老若男女を問わず広く地域の方々に、若者たちに読んで欲しい本の寄贈を募り、たくさんの本を寄贈頂きました。寄贈頂いた本に寄贈者のメッセージを頂くなどして、その本を仲立ちに、若者と地域のつながりが生まれました。また、新たな交流会等へと発展していきました。</p> <p>実施時期：2016/4/1～2017/3/28</p> <p>参加人数： あおぞらとしょかんに本を寄贈頂いた方：17名 あおぞらとしょかんを利用した方：34名 ブックトーク、交流会の参加者：21名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 72名</p>		



手づくり本棚にならぶ寄贈本



既存の本棚も寄贈頂いた本でいっぱい



本を持ち寄って盛り上がる若者たちのブックトークの様子



講師を招き、テーマを絞ってより深く学び合う読書会

実施に伴う効果

- 地域の方から寄付頂いた既存の本棚（家具）だけでは本を収納しきれないため、手づくりの本棚をつくるワークショップを行いました。このワークショップは、若者が自ら本棚を設計、DIYで制作する手法をとったため、完成までに多少時間はかかりましたが、若者の創意工夫が凝らされた思い出深い本棚ができあがりました。
- 地域の方が定期購読されている経済や美術等の高価な専門雑誌を、地域の方が読了後に寄贈頂けるようになりました。寄贈者からは「何度も読みかえずものでもないし、保管も大変だから、ここで活かしてもらおうと嬉しい」という言葉を頂いています。一方、利用者からは「この雑誌はなかなか手に入らない。ここに来ると読めてうれしい。」と歓迎されて、両者にとってよい効果が生まれています。資源の有効活用にも、役立っているのではないかと思います。

苦労した点

- 地域への本の寄贈よびかけPRについて
地域でSNSを利用していない方が多く、多様な世代に活動の趣旨をわかりやすく伝える方法を見出すのに時間を費やし、苦労した。
- 本棚の制作について
限られたスペースを有効活用し、かつ、収納スペースを確保する必要があったため、デザインを決めるのに時間がかかり、完成が大幅に遅れたこと。この間、寄贈頂いた本の管理と貸出運用に苦労した。
- 寄贈者メッセージについて
ほとんどの寄贈者が一度に10冊以上持参頂いたため、その場でそれぞれにメッセージを書いて頂くと時間がかかり、非常に心苦しかった。
- 担当スタッフの体制について
当初予定の担当スタッフが体調を崩し、読書会等の交流活動の一部を講師にお願いして実施することになった。寄贈頂いた本とそのお気持ちを活かすつなげるために、出来る限りのことを実施したつもりだが、体制維持に苦労した。

今後の課題・発展の方向性

- 寄贈頂いたさまざまなジャンルの本をより多くの方々に読んでいただくため、広報・情報発信方法を工夫し、紙媒体での広報拡大や公民館への配架など、多様なアプローチをしていくこと。
- 地域の安全や安心に深くかかわる防災・現在に関わる本や資料をより多く収集し、定期的に交流会等でのテーマに掲げていくこと。
- ブックトークや交流会の年間実施計画を早く立て、計画的に開催告知や広報を行い、参加者を増やすこと。

活動を終えての感想・意見等

おかげさまで、まちかど図書館「あおぞらとしょかん」は、スタートラインから一歩踏み出すことができました。今、本棚に並ぶ本を眺めると、寄贈頂いたみなさまの顔やその時の会話が思い出されます。管理を担当したものでなく、これからこのとしょかんの本を手取る方たちには、寄贈頂いた方の想いとメッセージを伝え、同じような気持ちになって頂きたいと思います。

また、当初、若者に読んでほしい本・心にさざ波を起こす本など、抽象的な表現で本の寄贈をお願いしたため、さまざまなジャンルの本が集まりました。結果的に、他とは違うとしょかんづくりにつながったと思います。これからも、この活動を続けていきたいと思っています。

このような機会を与えて頂き、ご支援頂き、心から感謝いたします。ありがとうございました。

活動名	団体名	花ネットワーク・BINGO
昔のあそびフォーラム in ふくやまプロジェクト	地域	広島県福山市
	代表者	会長 田邊 敏
	支援金額	20万円

活動概要

昔のあそびが年々忘れられているため、高齢者等が異世代交流することにより伝承するため、イベントを企画。今年で4回目の開催。

会場：エフピコ Rim6階 イベント広場
 目的：子どもたちと遊びを分かち合いたい
 内容：こま回し、けん玉、折り紙、スポーツ吹き矢、バルーンアート、わりばし鉄砲、和紙の紙すき、キャンドル作成

実施時期 2017/3/12 10:00～16:00
参加人数 約1,000名



受付



けん玉



バルーンアート



わりばし鉄砲

実施に伴う効果

現在年に1回開催していますので「昔のあそび」は年中行事の定番となりました。

苦労した点

今回よりイベント広場のスペースが少し狭くなりましたので配置に苦労しました。予算はもう少しあれば助かります。外部へのPR活動は充分であったと思います。参加者は1,000名程度で参加は午前集中していたと思われます。

今後の課題・発展の方向性

今までの経験を活かし、新しい企画を行いたいと思います。また、専門学校等とコラボを組みたいと思います。

活動を終えての感想・意見等

大変良かったです。

活動名		団体名	一般社団法人 ひろしまドリームマップ協会																																			
次世代リーダー育成「将来の夢を描くドリームマップ」を作ろう！ in HIROSHIMA		地域	広島県広島市																																			
		代表者	代表理事 田岡 美江																																			
		支援金額	30万円																																			
活動概要	<p>参加した幼稚園～小学6年生全員で自己肯定感をアップさせるワークし、将来なりたい自分の姿を台紙の上に写真や文字で表すドリームマップを作成し参加者と保護者の前で発表しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感アップワークの内容は、自分の好きな事・得意な事や友達のいいところを発見し、言葉の言い換えやポジティブな言葉の体験し将来の夢や職業の下書をしました。 自分の夢を台紙の上に写真や切り抜きを貼りビジュアル化してドリームマップを作成し、参加者全員の前で発表しました。 <p>ドリームマップ作成中に、保護者もドリームマップを作りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 親もドリームマップを作ることで子どもの夢を応援するコツを体験しました。 <p>実施時期：2016年7月24日(日)広島市、7月31日(日)廿日市市、8月7日(日)呉市、8月21日(日)東広島市、8月28日(日)尾道市</p> <p>参加人数</p> <table border="0"> <tr> <td>・ 広島市</td> <td>小学1年～6年</td> <td>20名</td> <td>・ 保護者</td> <td>15名</td> <td>・ 運営スタッフ</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>・ 廿日市市</td> <td>小学1年～6年</td> <td>10名</td> <td>・ 保護者</td> <td>6名</td> <td>・ 運営スタッフ</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>・ 呉市</td> <td>小学1年～6年</td> <td>20名</td> <td>・ 保護者</td> <td>10名</td> <td>・ 運営スタッフ</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>・ 東広島市</td> <td>小学1年～6年</td> <td>23名</td> <td>・ 保護者</td> <td>13名</td> <td>・ 運営スタッフ</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>・ 尾道市</td> <td>小学1年～6年</td> <td>25名</td> <td>・ 保護者</td> <td>8名</td> <td>・ 運営スタッフ</td> <td>15名</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">参加総人員 205名</p>			・ 広島市	小学1年～6年	20名	・ 保護者	15名	・ 運営スタッフ	10名	・ 廿日市市	小学1年～6年	10名	・ 保護者	6名	・ 運営スタッフ	10名	・ 呉市	小学1年～6年	20名	・ 保護者	10名	・ 運営スタッフ	10名	・ 東広島市	小学1年～6年	23名	・ 保護者	13名	・ 運営スタッフ	10名	・ 尾道市	小学1年～6年	25名	・ 保護者	8名	・ 運営スタッフ	15名
・ 広島市	小学1年～6年	20名	・ 保護者	15名	・ 運営スタッフ	10名																																
・ 廿日市市	小学1年～6年	10名	・ 保護者	6名	・ 運営スタッフ	10名																																
・ 呉市	小学1年～6年	20名	・ 保護者	10名	・ 運営スタッフ	10名																																
・ 東広島市	小学1年～6年	23名	・ 保護者	13名	・ 運営スタッフ	10名																																
・ 尾道市	小学1年～6年	25名	・ 保護者	8名	・ 運営スタッフ	15名																																



自分の夢がどんどん膨らみ、台紙を貼り足して夢を描くこども



自分の将来の夢に夢中！



お母さんも自分の夢を描き発表



全員で記念撮影！

実施に伴う効果

- ドリームマップ授業を取り入れていない小学校より開催依頼があった。
- 5地域で開催することにより、地域の教育委員会や地域の方とのネットワークが構築された
- 各地域に住んでいるドリマ先生が、イベント運営のノウハウが蓄積された
- 地域の企業・ボランティア団体（尾道 JC）とも連携ができ地域貢献ができた。
- 地域のお寺で開催することにより、地域の方から信用を得ることができた。

苦労した点

【予算】

- ・ 地域が広範囲なので交通費や宿泊に費用がかかった。次回からは企業とコラボして、企業の社員さんなどに手伝って頂き経費削減を行いたい。

【外部へのPR】

- ・ PR については、教育委員会を通じてチラシを配布して頂いた為、多くの参加者を集める事ができました。

【参加者】

- ・ お寺は国宝などがあり、誘導やこどもの安全に対する人員配置に苦労した。
- ・ サポートするスタッフを今後は増やさないと対応が難しいと感じた、子どもへの声掛けなどコーチングの技術を勉強したスタッフが対応することが望ましく、スタッフ教育も必要と感じた
- ・ 保護者が夢を描くことで、子供たちの喜びが増すのでもっと保護者に対しての参加呼びかけが必要と感じた。

今後の課題・発展の方向性

【課題】

- ・ 教育委員会を通じてチラシを配布する以外の告知方法も導入しながら、もっと多くの場所や地域で開催し知名度をアップする必要があると感じた。
- ・ 多くの学校でドリームマップ授業を開催する為にはさらなる人材育成が必要と痛感した。

【発展の方向性】

- ・ 次年度は広島メーカー（おたふくソース・マツダ・モルテン・カルビー）とコラボし企業で働く方にも PR できるイベントにしたい。協力していただく企業の業務内容や企業理念・社会貢献などを子どもたちに紹介し、職場体験などをしていただき、「将来の仕事（夢）を考えるキャリア教育イベント」にし、一人でも多くの子どもが将来の夢を描ける場を提供します。
- ・ 親向けの講座も同時に開催し、子どもの夢を応援する保護者を増やします。
- ・ 企業やボランティア団体がこの活動を応援する事例を多く作ることで、広島県の全小学校でドリームマップ授業ができ、企業が学校を応援する仕組みを作りたい。

活動を終えての感想・意見等

参加された子どもや保護者より、参加して良かった！ありがとう！の声を多く頂きました。今後の小学校での開催に向けて大きなPRになりました。

活動名	団体名	広島市シェアリングネイチャーの会
田んぼの楽校	地域	広島県廿日市市
	代表者	運営委員長 住吉 和子
	支援金額	25万円
活動概要	<p>田んぼを身近なものとし、田んぼからの恩恵となる食はもとより、農業と生きもの、農業と食、農業と人、農業と文化という繋がりを重視し、人を育てるという視点で活動を行っています。活動も11年目となり、親子を基本とした体験を行い、多様なコミュニケーションにより、のびのびとした人づくりに取り組んでいます。「人と人、自然と人、自然を知る、育てる、味わう」これらを通じたコミュニケーションを行うことにより、自閉症の子ども達など心を開き、積極的に動くなど成果も見えています。また、危機意識を高めるため子ども達には鎌や農機具を使わせ、自己危機管理能力の育成にも貢献しています。1年の会員制として年間12回程度開催しています。</p> <p>実施時期：4月17日～1月22日 12回 参加人数：1回あたり約35名の参加</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 420名</p>	



芋の植え付け



泥んこ遊び



田植え(手植え)



稲刈り(手刈り)

実施に伴う効果

- 活動の趣旨は、農業体験による農業の営みとあわせ、親子が同じ作業を行い、自然に触れ合うことが重要であり、知らない家族や子ども達が1つの取組みを行うことによる共通意識とコミュニケーションにあります。
- 参加している子ども達には、自閉症の子どもがいますが、少しずつ心を開き、周囲とのコミュニケーションが取れ始めた子どももいます。成果の1つです。
- 子ども達は、将来自然と何かの繋がりがある勉強をしたいと言い始めるなど、魅力にとりつかれている傾向もあります。
- 親からは、毎年参加させてもらって楽しんでいるとともに、自然を感じ同じ話題が家庭内でも頻繁に出ると言うことも聞いています。子ども達も友達との繋がりを大切にすのほか、危険行為も自ら対処するなど、ちょっとした情操教育の1つとして活動が進んでいることは、主催者にとってありがたいことです。

苦労した点

- 今回はありませんでした。

今後の課題・発展の方向性

- スタッフ不足です。ネイチャーゲームなど指導員の確保とあわせ、農業体験ができるスタッフを集めなければいけません。現在活動しているスタッフは、年々歳をとり疲れてきています。切実な問題に直面しています。
- 将来は、現状をいかに維持していくのが重要となっています。

活動を終えての感想・意見等

- 毎年ですが、充実感と疲れが錯綜しています。

活動名		団体名	HMCN (Hiroshima Motion Control Network)
レゴロボットによる科学体験サロン		地域	広島県広島市
		代表者	メンター・アドバイザー 松本 慎平
		支援金額	45万円
活動概要	<p>本活動は、誰でも安価に入手可能になった市販のセンシングデバイスを用いて、IoT プログラミングを若手エンジニアが教える場、初等中等教育の生徒を中心とした一般の地域住民がプログラミングを学べる場を構築するものです。IoT プログラミングの教材として、本活動ではレゴブロックを取り上げます。本活動は、初等・中等・高等教育機関、そして地域で頑張る IT システム会社をプログラミングという共通項で結び付け、プログラミングの本質である創造することの楽しさを体験してもらうこと、ソフトウェアの「ものづくり」に対する興味関心を高揚させることを目的としたものです。</p> <p>実施時期：</p> <ol style="list-style-type: none"> LEGO Mindstorm によるプログラミング体験、2016年7月2日、湖畔の里福富 レゴロボットを使ったプログラミング体験教室、2016年8月10日、観音台公民館 はてなワールド、2016年9月19日/22日、湖畔の里福富 5. 第3回/第4回 CoderDojo 五日市、2017年2月11日/3月25日、広島工業大学 (6. 第5回 CoderDojo 五日市、2017年4月30日、広島工業大学) (7. まなびフェス、2017年5月3日、湖畔の里福富) <p>参加人数：スタッフ 72 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 358 名</p>		



観音台公民館



観音台公民館でのライトレース



福富でのクランクロボットプログラミング



福富でのライトレース

実施に伴う効果

今回のご支援により、他団体との連携が実現された。広島には我々と同様の目的の下で活動されている多くの団体が存在するが、従来はこれらが連携することなく、小さな活動を細々と続けていることが多かった。今回の助成で購入ができたレゴロボットにより、本団体が中核となり、地域の団体がまとまり団結することにつながった、特に大学生を地域活動に巻き込むことに成功した。その結果、はてなワールドなどといった非常に大規模のイベントの成功につながったのではと考えている。

苦労した点

本活動は、プログラミングの面白さ、魅力を地域社会の子供たちに広く伝えることを目的として取り組んだものである。まず、予算の都合上機器の台数に限りがあるため、十分なレゴロボットを用意することができなかった。参加者を十分に満足させるため、プログラミングの魅力を十分に伝えるために、合計7台のレゴロボットをいかにうまく活用すべきかについては、非常に難しい課題であったと考えている。本活動では「ペアプログラミング」と呼ばれる開発メソッドにより、台数制約の克服を試みたが、台数制約の問題に加えて、学習者の多様性も大きな課題であった。たとえば小学校高学年では、コンピュータを問題なく使いこなせるのに対して、小学校低学年になると、まず画面の文字を理解できない場合や、さらにマウス操作が十分にできない場合が多々見受けられた。またイベントの最適な時間配分や、教材の作り方によっても、年齢や教育環境により大きな開きがあることが分かった。特に小学生においては、環境や年齢による差は想定以上のものであった。こういった学習者の多様性を考慮しながら、プログラミングを教えることの困難さを痛感した。なお本活動ではイベントを実践した後で、学習者に対して事後アンケートを実施した。結果は添付「LEGO Mindstorms EV3 を用いた小学生向けプログラミングイベントの実施」のとおりである。参加者の子供たちからは、レゴを用いたプログラミング教育に対して非常に高い評価を得ることができた。プログラボ (<http://www.proglab.education/>) では、LEGO ロボットを用いた2017年4月からのプログラミングスクールの開講が発表されている。一方このような講座を受けるためには、相応の受講料が必要である。プログラミングをわかりやすく学ぶためには、現段階では、ある程度の費用が必要となる。教育において格差はあってはならないと考えている。そして子供たちにとっては、コンピュータの画面だけで終わるのではなく、「体験」の要素が特に重要であると考えている。したがって体験を重視しながら、かつ安価に（小学校の教育環境を鑑みると、コストを下げることは極めて大きな課題であると考え）プログラミングの考え方を教える教育法の構築は、特に重要な取り組みであると考えられる。

今後の課題・発展の方向性

日本は政府主導の下で、IT教育を義務教育課程で推進する方針を掲げている。一方で、IT教育に関しては、実は日本は2003年の段階から力を入れているにもかかわらず、実態が伴っておらず、結果日本の「英語教育」に近い問題を抱えた状態である。プログラミングは、実践的かつ実用的な技能である。よってプログラミング教育においては、知識以上に、実践・経験を多く積むことができるような教育システムの構築が必要であると考えられる。本申請者はプログラミング教育システムの構築に対して、大学教育との連携が有効ではないかと考えている。具体的には、大学生が教育の一環として小中学生にプログラミングを教える、というものである。人に教えるという経験は、極めて効果的な学習法である。また、自分が身に付けた知識を活用するという機会は、学習の動機付けを高めることに対して有効な仕掛けである。よってプログラミングの基本的な知識、技能を身に付けた大学生が、自分の理解を確認する場、自分の役割を自覚する場、自分の実績を積む場、として、小中学校の教育現場をうまく活用でき、一方で小中学校の先生方のご支援を同時に実現できるのではないかと考えている。よって、今後は教育機関ごとに縦割りでプログラミング教育をとらえるのではなく、生徒・学生のための学習システムといった大きな枠組みでプログラミング教育の最適なあり方を検討し、その構築に向けて取り組んでいきたいと考えている。

活動を終えての感想・意見等

貴財団のご支援により、この度は非常に多くの貴重な経験を積むことができた。申請者らは、自立し持続する地域社会の構築を目指して、社会システム工学、教育システム工学の研究に従事している。そして、広島を自立する街の代表格にしていきたい。中央政府に頼らず、自分たちで地域社会を作っていけるような仕組みを確立したいと考えている。そのためには、地域の中での人材活用、地産地消、相互扶助などが課題とされるが、一番大切なのは、地域を自分たちの手で作っていききたいと考える思い、人とのつながり、そして教育であると考えている。地域の課題を解決するためのアイデアを考え、テクノロジーを活用して公共サービスの開発や運営を支援していくという理念のもと活動を推進しているCode for Japan といった団体があり、Code for Japan は目指すべき方向性を示してくれている。自分達の手で地域を運営していくという強い思いを育み、そして人とのつながりを大切にしながら技術を学んでいけるような情報教育の構築に向けて貢献していきたい。

活動名	団体名	ひねもすようこそ
地域の誰もが集える場～ひねもすようこそ～	地域	広島県広島市
	代表者	代表 池岡 洋子
	支援金額	30万円
活動概要	<p>1. 障がい児者や高齢者のかかえる地域の課題を少しでも解決できる手立てはないものか、また制度では解決できないかもしれない隙間のお手伝いができる事業が必要ではないかと考え、本事業は協同労働というシステムを取り入れ、2年前にひねもすようこそを立ち上げるに至った。</p> <p>2. 障がい児者、高齢者の抱える悩みや困りごと等、早急に対応していくべき課題への取り組みである。高齢者・障がい者・病者・子育て中の親など、色々な人が入り混じって、共に過ごす空間を作りたいと願っている。</p> <p>実施時期</p> <p>1. 障がい児者支援事業...毎週土・日、祝日及び長期休業中</p> <p>2. 地域サロン事業...毎週月曜日・水曜日及び不定期の平日</p> <p>3. 地域の困りごと支え合い事業...通年不定期</p> <p>実施場所：ひねもすようこそ及び夢の広場ようこそ</p> <p>参加人数</p> <p>1. 障がい児者支援事業...利用者8名 スタッフ6名 延べ600名</p> <p>2. 地域サロン事業...参加者30名 スタッフ6名 延べ1000名</p> <p>3. 地域の困りごと支え合い事業...利用者10名 スタッフ6名 延べ50名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,650名</p>	



2周年



カーブ観戦



ひまわり園



地域サロン健康体操

実施に伴う効果

- 障がいをもつ子たちの土日休日の行き場がなく、困っている親子がある。ひねもすで受け入れることで、子ども達の居場所ができたと共に、働く親御さんの仕事や生活がしやすくなっている。
- 家庭と学校又は作業所の行き来だけの生活だった障がいをもつ子たちの、活動の幅が広がった。また、地域の行事に参加したり外に出向いて行ったりすることで、多くの人との関わりが持てるようになってきた。
- 地域サロンは、高齢者や地域の方の集いの場になっている。人が集まり、話をしたり活動をしたる場が、歩いて来ることのできるところにあるということが一番喜ばれている。
- 高齢者の生活の困難なことのお手伝いを、少しずつではあるができるようになってきた。

苦労した点

- やりたいことはたくさんあるが、事業内容を増やせば増やすだけ、少人数のスタッフは忙しくなるばかりである。スタッフを増やしたいが、なかなか対象者はいないのが現実。
- 障がい者支援も高齢者支援も、利用料や参加費はもらっているが、できるだけ利用者に負担のかからない金額に設定している。運営としては、厳しい予算で行うことになる。
- サロンの参加者が固定化している。通信やチラシで呼びかけをしているので、少しずつ新しい参加者が増えてはいるが、もっと広げていきたい。
- 困りごととしては、あまり依頼がないこと。困っていることはあるが、人に頼むのには抵抗があると思われる方もあるので、気軽に利用してもらえそうな方法を考えていかなければならない。

今後の課題・発展の方向性

- ひねもすスタッフやボランティアスタッフの確保ができるよう働きかけていく。
- 事業を長く継続していくために、助成を受けたり、不労収入の良い方法はないか考えたりし、資金確保をする。
- 新しい利用者が増えていくよう、サロン内容を検討していく。
- 高齢者の困りごとはどんどん増えていくと思う。広報することやコミュニケーションを図るなどし、地域の困りごとと支え合い事業を充実させたい。

活動を終えての感想・意見等

- マツダ財団の助成を受けたことで、バス旅行に行くなど、普段ではできないことが実現した。ひねもすようこそは、障がいをもつ子たちに色々な経験をさせたいことと、障がい者も高齢者も共に集える居場所作りを目指している。そのひとつとして今回のバス利用は、大変意義あるものだった。

活動名		団体名	特定非営利活動法人日本 タッチ・コミュニケーション協会
「ストレスフルな社会をしなやかに生きる 『レジリエンスな次世代を育む』活動」		地域	広島県広島市
		代表者	理事長 宇治木 敏子
		支援金額	25 万円
活動概要	<p>キックオフイベント 講演会&セミナー 演題：「21世紀を生き抜く折れにくい心の育て方」(H28年度呉市男女共同参画週間事業と連携) 親の学びの場づくり 演題：「～ストレスに強い子どもを育てる為に～レジリエンス講座」 親子の実践の場づくり 演題：「ストレスに強い子どもを育てる親子のタッチ・コミュニケーション講座」 実施時期 呉ポートピアパーク(呉市天応)：5/22(日) 呉ポートピアパーク(呉市天応)：9/12(月)、10/17(月)、11/14(月)、12/12(月) 合人社ウェンディひと・まちプラザ(広島市中区)：10/6(木)、11/10(木)、12/1(木)、1/12(木) 呉ポートピアパーク(呉市天応)：6/13(月)、7/11(月)、8/8(月) 合人社ウェンディひと・まちプラザ(広島市中区)：6/23(木)、7/28(木)、8/25(木) 参加人数 第1部：75名 第2部：26名 【呉市】7名 のべ14名(託児3名) 【広島市】24名 のべ76名(託児9名) 【呉市】6組 のべ22名 【広島市】12組 のべ74名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 287名</p>		



子どもの気持ちを聴くためのワーク



ストレスに強い子どもを育てる為に！皆さん、真剣です！！



子どもの気持ちに寄り添うための学びの場です



親子でタッチ・コミュニケーション

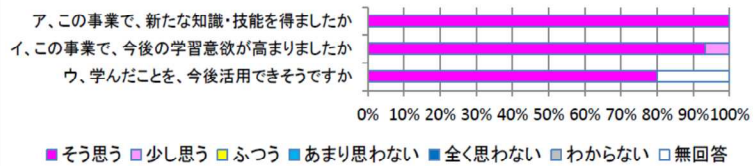
実施に伴う効果

キックオフイベント「21世紀を生き抜く 折れにくい心の育て方」

呉市人権センター経由『レジリエンス』という耳新しい言葉を前面に本事業のポスター・チラシを呉市全域に配布。呉市全戸への回覧板などの告知で市民多数に興味を持って頂き、参加者は年齢も20～90代で定員超えとなった。呉市のアンケート調査では、参加者の90%が「現代の社会的背景」「若者の幸福度の低さや自殺など社会的課題の要因に子どもの自己肯定感の低さがある」「自己肯定感を高めるため乳幼児期からの心のふれあいが重要」などと記載、本事業の目的は達成できたと思う。

親の学びの場づくり「～ストレスに強い子どもを育てる為に～レジリエンス講座」

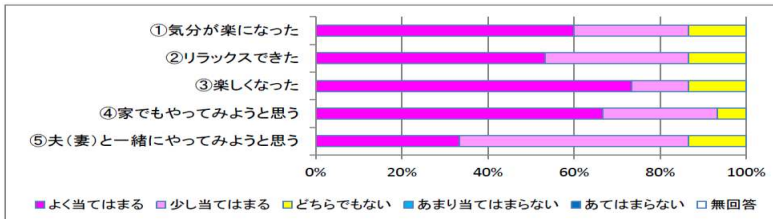
広島市中区会場は「広島市まちづくり市民交流プラザ」との共催で、市内中心地の立地条件を活かしポスターを掲載、多くの方がチラシやポスターに興味を持ち参加され、参加者は予定数を超えた。職場のメンタルヘルス対策に活用できると男性就労者の方が休暇を取られての参加は関心の高さを示している。4回を通しアンケートから、殆どの方が毎回気づきを得られていること、次の回までにその気づきを生活の場で実践されていること、がわかり主催者としても大変やりがいのある事業となった。右は中区講座最終日の調査結果である。



親子の実践の場づくり

「ストレスに強い子どもを育てる親子のタッチ・コミュニケーション講座」

イベント的な子育て支援の場は近隣公民館等で開催、発達心理学に基く育児の学び、実践を通した子どもとの触れ合いを学ぶ場は貴重である。参加の方々に育児は学ぶ時代であることが理解して頂けた。3回目の講座で参加者の心の変化を調査、スキンシップによる子どもへの肯定的な心の変容が観られた。子どもの自己肯定感を高める子育てに繋がる結果となった。左は中区セミナー最終回の調査結果である。本事業から発展し、祇園西公民館との連携で「レジリエンスな生き方、育て方」のタイトルで同プログラムを開催、更にサムエル幼稚園での教育講演会など、ストレスに強い子どもを育てる取組みが広がっている。



苦労した点

本事業はマツダ財団様支援団体として信頼を得られ、多方面の行政の連携が円滑に取れた。呉市のイベント、広島市中区のセミナーは想定以上の参加者で、多くの方々に貢献できたと思う。現在の情報化社会で、チラシやポスターによる集客の難しさを痛感している。次世代の健全育成のためのどんなに良い情報も、セミナーに集客できなければ学んで頂けない。本事業を基盤に次年度への発展のため、今の時代に合い子育て中の世代にマッチした告知能力を備えていきたい。

今後の課題・発展の方向性

本事業の社会的成果として短期的効果は、アンケート結果からも、親自身がストレスに強く生きるため考えるきっかけとなり、更にストレスに強い次世代育成に向け、それを意識して交流することの大切さが理解されたこと、と言える。

【今後の課題】 「レジリエンス」を学び理解したことをいかに実践に活かし継続するか。その運営はどのように行うか。

【発展の方向性】 継続には安心して学べる場が必要。気軽に参加でき、お互いの実践を高め合える場づくりが必要。次年度は広島市中区中心にお互いの学びの場「レジリエンス・カフェ」開催に向け準備したい。できるだけ受益者の自主性を引出し参加者側で自主運営できるよう、当法人は後方支援のため構築したい。『レジリエンス・カフェ』は日常に起こる問題を乗り越える為に話をする場としてエリック・バーン博士の交流分析を取入れ、当法人は「安心の場づくり」を支援する。問題提起者自身が話しながら、自分自身で問題を整理して客観的に解決の方向に向うだけでなく、参加者が傾聴することで傾聴者自身も相乗効果がみられるグループカウンセリングを目指す。

活動を終えての感想・意見等

この度、貴財団の交流会で、運営されるうえでのご苦労を伺い、当法人がご支援を賜ったことに対する感謝の気持ちが一層強くなりました。このような厳しい経済状況であるがゆえに、我々の様な非営利団体は、これまでの活動を維持することさえも難しい状況にあります。そのような中、貴財団様には、設立当初から応援して頂き、大変心強く思っております。本活動を更に発展させ、来年度に繋げて参ります。今後とも、変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

実施に伴う効果

- 乳幼児を育てている保護者が、絵本の見方や捉え方について新しく知識を獲得され、我が子の子育てに生かしていこうという意見を多数伺いました。
- 小学校の教諭が絵本の読み聞かせの大切さや絵本が読書教育や読書習慣にもたらす効果について再認識するきっかけづくりとなったようです。
- 他校の小学校読書ボランティアの方に、活性化の刺激を与えることができました。

苦勞した点

- 公民館や集会所でお話会を計画する際、スタッフの曜日と時間の都合がなかなか調整できずに、直前まで苦勞しました。
- お話会に向けての練習時間やリハーサルの確保がなかなか取れずに本番を迎え、慌てふためいたこともありました。もっと事前計画をしっかりと立て、ロードマップを作成することの大切さを学びました。
- お話会を実施するにあたって、集会所や子育てサロンの場所や責任者の方を探して、お話会の依頼をするのに苦勞しました。
- お話会の場所（集会所）にチラシを貼ったり置いたりするだけでは参加者を呼び込めないのも、近隣のお家へ戸別にチラシを配りが大変でした。
- 購入する絵本の選択に苦勞しました。膨大な数と種類の中から適切な絵本を選択するには、大変な時間と労力を費やしました。
- 読み聞かせの絵本と参加者のニーズがマッチングした時は、豊かな時間を共有できますが、ミスマッチの時は、他の絵本にしたりプログラムの一部を変更したりしました。

今後の課題・発展の方向性

- 絵本と素敵な出会いをした人は限られ、十分に絵本活動ができたとは言えません。そこで、これまでの活動をフィードバックして、さらに充実した活動を模索していきたいと思います。
- 図書館に行きたくても行けない人や、どんな絵本をよめばよいのか分からない人たちのために、公園やイベント会場等アウトドアへ活動範囲を広げ、質の高いすばらしい絵本に出会う機会を作ることで、たまたま近くを通りかかった方が、自由に絵本を手にとって直接触れてもらいながら絵本と素敵な出会い体験をして頂きたいと思います。
- さらに多くの人の心に、感性のたねまきをしたり絵本と人をつなげたりする活動の取組みをしていきたいと思います。

活動を終えての感想・意見等

- 広島県内で最初の「絵本専門士」（国立青少年教育振興機構認定）の資格を取得しました。支援金を頂いたおかげで、この資格を生かして青少年をはじめ多くの方々に絵本の魅力や不思議さをお伝えすることができました。また、絵本に対する見方や捉え方等、多くの人に影響を及ぼすことができ、活動を終わって今は感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

活動名		団体名	特定非営利活動法人 『 My Life 』
障害児主体の畑活動		地域	広島県広島市
		代表者	理事長 石田 雅也
		支援金額	30 万円
活動概要	<p>障害を持つ子どもと親、兄弟児、地域住民の方と協力し、畑で作物を作ります。それらを収穫、催しなどを行い、障害児・者の集う場所、働く場所などの居場所作りにつながる活動を目指します。高齢化、過疎化という課題のある安佐北区において、利用していない土地を活用し本事業を行なう事で、子育て世代、大学生、地域住民を呼び込み地域を活性化していきます。</p> <p>実施時期 2016/4/1 ~ 2017/3/31 (2016 年度は 11 回開催)</p> <p>参加人数 小学生(13)、中学生(1)、高校生(4)、大学生(3)、社会人(3)成人女性(18)、成人男性(9)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 51 名</p>		



みんなで集合写真



挑戦



そら豆を植えています



たくさん収納できる大きな倉庫を購入できました

実施に伴う効果

この地区は高齢化、過疎化という地域課題を抱え、現在利用していない土地が多くある地域。障害を持つ子供たちが地域の皆様に助けをいただきながら畑活動をする事により、交流が深まり、誰もが暮らしやすい心のバリアフリーな地域づくりの一步になっている。毎回学生ボランティアの参加もあり、町が明るくなったと地域の方に喜んでいただいている。同じような地域課題を持つ地域の方が1日体験に来られることもあり、今後の地域活性化の参考になったようだ。

苦労した点

徐々に販売の収益も上がってきていたが、今年度は天候異常や、カラス・鹿などによる被害もあり、思うように活動資金、活動を拡大するための資金を得ることが出来なかった。

障害を抱える子どもは体調に波があったり、天候によっても体調を崩す子どもも多く、回によっては参加者が少ないこともあった。

収穫時期を見越して活動日を予定しても、収穫物が育っていない事もあり、日程の調整が大変だった。

今後の課題・発展の方向性

障害を持つ子供とその家族が充実した時間を過ごす事の出来る場所作りを目指して活動を始めてから2年半が経過した。子どもたちは植え付けや収穫などの作業を手際よく、短時間でできるようになった。活動当初は、地域の方にお任せしていた耕運機を用いて畑を耕す作業も、耕運機の購入により子供たち自身で挑戦することができた。

販売は安佐北区役所、安佐北区社会福祉協議会、民生委員会、ボランティア連合会、福祉作業所などを回らせていただき徐々に収益も上がってきていたが、今年度は天候異常や、カラス・鹿などによる被害もあり、農業の難しさを実感した。

活動資金、活動拡大のための資金の確保が課題ではあるが、来年度は活動に賛同して下さった地域の方から農地の貸し出し提供があり、安定収穫できる作物の増産で収益増が見込める。また、将来的には地域のNPO法人との連携で、古民家を利用したカフェの運営、畑で作った大豆を使った味噌作り販売も視野に入れている。それに先駆け、今年度は味噌作りワークショップを開催したいと考えている。また、小麦アレルギーの人の為の大豆を使用した粉作りにも挑戦し、商品化を目指している。

回を重ねるごとに地域の方の賛同や支援、企業会員や、区外の方の一日体験も増え、交流を深めている。今後もイベントを企画するなどさらなる交流を深め、バリアフリーな関係作りと地域の活性化につなげていけると確信している。

活動を終えての感想・意見等

NPO法人へ移行して1年目の今年度、マツダ財団さまにご支援していただき、子供たちは自信と誇りを持つことができ、少しずつですが確実に成長しました。心から感謝申し上げます。

これからも地域の皆様と親睦を深めながら、一步一步目標に向かって歩んでいきたいと思っております。本当に、ありがとうございました。

活動名		団体名	福山市立山南小学校「環境守り隊 1・2・山南(さんな)！」
環境守り隊 1・2・山南！ ～ふるさと山南の環境を守るためにわたしたちに できることは何だろう～		地域	広島県福山市
		代表者	校長 堂本 啓介
		支援金額	25万円
活動概要	<p>ふるさと山南の歴史、自然環境を生かして、ふるさと学習をもとにした学年に応じた環境の保全と創造に関する学習活動を行った。新しく創設された環境委員会を中心に校内美化活動・リサイクル活動や、「ふくやまエコトリアスロン」に関わる活動。一人一房特産物ブドウ作り・ジャム作り、そしてイラストレーターにデジタル化を依頼した山南小教育推進キャラクター「ブドウモリ」の誕生。またふるさと学習をもとに「地域マップ山南 2016&ガイドブック」を作成するとともに、伝統芸能「はねおどり」を保存会の方と練習を重ね、「山南地区夏祭り」や「炎と響きの祭典 ひびきまつり」等で披露した。学校が主体となり保護者、地域、企業、行政等と協働の視点で行ってきたこれらの活動を深化・発展させるために、ユネスコ憲章の理念を実現していく「ユネスコスクール」(国内929校 2016年10月現在)に登録するための申請まで行うことができた。</p>		
	<p>実施時期 2016年4月～2017年1月</p> <p>参加人数 児童121名、教職員12名、PTA89名、地域ボランティア30名が中心</p> <p>主な活動参加人員 ふるさと学習：約550名 環境学習：約800名 農業体験：約350名 緑化活動：約250名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 約2,000名</p>		



ブドウモリ



大活躍した環境委員会のメンバー



みんなで育てたパンジー



5年生が自分で育てたブドウでジャム作り



伝統芸能「山南のはねおどり」

実施に伴う効果

- 長年取り組んできている中で、新しく環境委員会が創設されリサイクル活動や校内緑化・美化活動が活性化した。「エコトライアスロン」への参加を通して、子どもたちが本当に自分たちの活動として意識し始め、呼びかけ方・放送の仕方など、多くの創意工夫した活動が生まれた。それが他活動へも好影響した。
- 「ふるさと山南が好きですか？」というアンケートで 94%の子どもたちが好きと答え、その理由として特産物ぶどうとともに、地域の人がやさしい、見守ってくれているなどの声が多かった。年間通じて多くの地域ボランティアの方に関わっていただき、「ふるさと山南」の元気につながったと考えられる。
- ユネスコ憲章の理念を実現していく「ユネスコスクール」に登録するため、今年度の活動をもとに今後の構想をまとめ申請まで行うことができた。活動の目的、評価など曖昧だったことを学校全体としてはっきりとさせることができた。

苦労した点

- 長年取り組んできたことをもとに、新しい活動を考えてきた。考える中心は子どもたちで、指導者の指示を待ち、それに従い確実にやりきることを目標とするのではなく、試行錯誤しながら企画し、実施してみてもたまたま改善していくような主体的な活動をめざした。一番苦労したことだが一番大切にしたいことであった。
- 環境を大切に作る心を育てるため毎週木曜日をリサイクルデーとしてリサイクル活動に取り組んだが、意欲満々の環境委員会と比べ、当初なかなか空き缶等が集まらなかった。放送や集会での呼びかけ、ポスターなど工夫を粘り強く重ねその輪が大きく全校へ広がった。地域からも協力を得た。

今後の課題・発展の方向性

- 来年度はユネスコスクールとして、今までの取り組みをもとに、E S D (持続発展教育)の観点を明確にし、各児童に持続可能な社会の担い手に必要な知識、能力、態度、価値観を身につけさせることを目的とする。活動状況を国内外のユネスコスクールに向けてHP等で発信し、学校間ネットワークを広げるとともに、よりよい活動に改善・発展させていく実践力を高める。
「主体的に問いを立てて、他者と協働しながら解決していく力」 主体性・協働性・創造性・社会貢献力
- 地元特産物をもとにした山南小教育推進キャラクター「ブドウモリ」が誕生し、「沼隈ブドウ」認知度向上のための活動や学校内外への表示板の設置等、「ブドウモリ」を通して「ふるさと山南」を活性化させる。
目標 生産量全国 10 位を、それ以上に向上させる。

活動を終えての感想・意見等

今回ご支援いただき、大変感謝いたしております。「今まで通り」をしていくことも難しいことで、また「新しいこと」をしていくことはさらに難しいことで、マツダ財団の市民活動支援団体に今年度決定したことが、それらを進めていくうえで大きな力となりました。

言うまでもなく「ふるさと山南」は子どもたちにとっても、地域にとっても大切なかけがえのないものです。今後もふるさと山南の環境を守るために「環境守り隊 1・2・山南！」は、主体的・協働的に環境の保全と創造に関する学習活動を進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

活動名		団体名	読み聞かせボランティア “こころ”
地域で子ども達への読み聞かせ活動		地域	山口県周南市
		代表者	代表 勝原 明美
		支援金額	15万円
活動概要	<p>菊川小学校を拠点に年間 80 回程度の活動を行う。 備品購入で絵本・紙芝居、大型絵本が増え、読みきかせの場所が増え、地域のバザーにて読みきかせ場所をもうけ、未就園児や親子が参加して 3 回の時間帯で活動も行う。 大型絵本などが増え、子どもたちにも毎回の読み聞かせもバージョンアップし、学校内でも先生方に喜ばれ、落ち着いて授業につなげることができた。また、活動が認められ、2017 年度の山口県の子ども読書活動団体表彰も 4 月に受ける事ができた。</p> <p>実施時期：2016/4/1～2017/3/31（年間 80 回程度） 参加人数： 15 名（地域ボランティア 4 名と小学校保護者 11 名） バザー、祭り（参加人数 50 人）</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 約 65 名</p>		



菊川まつり・未就園児読み聞かせコーナー



月曜金曜 朝学読み聞かせ活動



読み聞かせお披露目会



読み聞かせお披露目会 図書一覧

実施に伴う効果

- 財団備品（購入した絵本・大型絵本・イーゼル等）の地域コミュニティ団体への貸し出しを展開予定。
- 周南市全域での貸し出しも行う予定。
- 2017年度山口県子ども読書活動団体表彰を4月に受ける。県内の他の団体へも見本になれば嬉しい。

苦労した点

- 初めて地域での祭りに読み聞かせコーナーを設置した。活動をPRできる場所にもなったが、PR不足もあり、時間帯がうまくいったかどうか？
- 当日は日曜日で休日だったため、ボランティアの人数が少なかった。（参加者は親子30組くらい）

今後の課題・発展の方向性

- ボランティアの負担を軽減すること。絵本が拠点にあっても支援するボランティアが皆働いていることもあり、絵本を読むボランティアがなかなか増えないこと。
- 長く続けていくことを前提に考えていくよう、ボランティアの意識を統一していくこと（コミュニケーションが大切）

活動を終えての感想・意見等

たくさんの備品が増え、活動の幅が広がりとても感謝しています。
学校を拠点にしているいろいろな展開ができることは、地域の活性化にも役に立てることと思います。

活動名		団体名	特定非営利活動法人 山口科学技術子供フォーラム
理系子ども育成応援活動		地域	山口県防府市
		代表者	理事長 浴永 直孝
		支援金額	15万円
活動概要	<p>日本は科学技術を第一に据えるべきと考えているが、子供の理科離れが進んでいる。また、地方と大都市との教育格差も進んでいると捉えている。それを危惧して、地方都市である防府市にて以下の2つの事業を収益なしで継続実施している。</p> <p>えきなが講座：世界的レベルで活躍されている3人の理系大学教授を防府市に招き、進路の定まっていない中学生主体に年3回、講師自身の研究を通じて科学技術の楽しさを身近で話して貰う無料講演会を実施。天文学、電気化学、人工結晶工学の3分野。子供達が延べ87人参加。</p> <p>ボランティア寺子屋：お寺さんが場所を、当NPOが教師を提供し、お寺さんの檀家の子供に理系学力の向上を支援するというボランティア寺子屋の構想において、社会福祉法人・防府海北園の園児たちに対し、毎週水曜日約1時間実施。園児たち約60人が参加。</p> <p>実施時期</p> <p>えきなが講座： 2016/11/27、2017/1/22、2017/3/12 ボランティア寺子屋：2016/4/1～2017/3/31 毎週水曜日</p> <p>参加人数</p> <p>1. えきなが講座（3回）：延べ87人（大人除く） 2. ボランティア寺子屋：延べ60人（社防府海北園の園児）</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 147名</p>		



折り紙を折りたんで、雪の結晶の形(正五角形)を切り出せるでしょうか



第19回講座 演題:エネルギーをつくる、つかう、ためる



第20回講座 演題:宇宙って何だか知っていますか？



講演終了後、教授に質問する中学生たち

実施に伴う効果

参加した子供たち、引率された教諭たちから感謝された。
高校教諭から「自分たちの教師活動に参考になった」とのコメントを受けた。

苦労した点

心配した第一は、助成金が頂けないと理事長・浴永の負担が大きくなること。次に心配したことは、参加者の人数。

コンタクトした教諭の殆どは当NPOの活動に賛同してくれるが、実際に子供達を講演会場に引率してくれる方は少ない。

また、防府市は特に部活動としてスポーツが盛んで、その試合が多く年間行事となっていて、当NPOの講演会と同日となることが多い。

さらに最近は、引率に対する安全性について責任を負えないと思っている教諭も増えている。

今後の課題・発展の方向性

えきなが講座の場合毎年ほとんど同じ講演内容であるが、子どもたちは成長して行くので、参加者は年々入れ替わり、大きな問題ではないと考えている。講演分野については、バイオやロボットなども増やすことも検討したい。一方、教育は継続が重要であると考えている。これからも続けて行きたい。

えきなが講座については、引率の問題がある。そこで、商工会議所の会員の子供たちや青年会議所の会員の子供たちに、父兄から直接子供に参加を促して貰うようにし、子ども参加者数50~70人を確保したいと思っている。

ボランティア寺子屋については、もっと参加者の数を増やすことが出来るように、(社)防府海北園さんとも話し合っ行って行きたい。また、防府天満宮での子供科学者応援塾も再開したい。

活動を終えての感想・意見等

なかなか自分の思うように進まないものだと痛感している。

活動名	団体名	公益社団法人 防府青年会議所
こどもまちづくりプロジェクト2016 -ドリームチャレンジワークス-	地域	山口県防府市
	代表者	理事長 脇 幸典
	支援金額	40万円
活動概要	<p>まちにある多くの職業がまちを支えていて、自身の将来就く職業もまちを支える1つだと気づいてもらい、自身の将来に対して夢を持ち、主体性を持って努力する青少年の育成をすることを目的としました。全4日間の工程で市内の小学生4、5、6年生40名を対象に、職業体験の経験を生かしたイベント運営を実施しました。</p> <p>まず、こどもたちが住み暮らす防府市、防府市近郊にある仕事(7業種)を体験し、実際に働いている大人からの話を聞いたり、実際に体験することで自分たちが住んでいるまちの仕事を知ってもらいました。そして、主体性を育むという目的のため、翌週に行われるバブルサッカー大会に向け、職業体験を生かしてその仕事がイベントにどう関われるか準備し、子ども達自らの手で運営しました。</p> <p>実施時期 7月17日(日)、23日(土)、30日(土)、31日(日)</p> <p>参加人数 チャレンジャー(参加した子ども)65名、キャプテン(県内に住む青年)7名、イベント観覧者(チャレンジャー保護者)85名、防府青年会議所メンバー38名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 195名</p>	



職業体験



大会前日準備



大会当日



全体集合写真

実施に伴う効果

各チームの職業体験では、多くの子どもが真剣に講師の方の話を聞き、メモを取り研修に取り組んでいる姿を見る事ができました。前日準備中や大会中では、大会に向けて職業体験の経験を生かしながら考え、行動していました。

キャプテンとして参加していただいたメンバーは、事業前に行った研修等を通じて、事業の目的や子どもたちの関わり方を理解していただいた部分もあり、子どもたちの指導役として全行程で子どもたちを導いていました。その結果、今後まちを支えていく人材へと成長してくれたと確信しております。

子どもたちを参加させた保護者からは、参加前は不安だったが、はつらつと動いている姿を見てうれしくなった、毎回子どもたちが家庭に帰り、子どもたちと事業の話をする事ができ、成長を実感できたなど、たくさんの感想をいただき、次回開催も熱望されています。

苦労した点

青年会議所の事業は単年度ごとに目的内容を変えて行うため、事業計画を企てる際から調査分析が不足してしまいました。事業内容の変更等もあり、決定するまでに時間がかかり、スケジュール通りに運ぶことができませんでした。そのため、実施参加募集人数を多くした事業を計画しましたが、事業実施日時、募集方法や期間中の地域での行事等の調査不足で、目標募集人数に達することができませんでした。

また、事業PRについて、多くのマスメディアを使った告知等を予算組みしていなかったこともあり、外部への告知が十分できませんでした。そのため事業の目的を理解していただく資料が募集チラシ・ホームページなどしか無く、参加していただく子どもたちや保護者にまちづくりに対して意識しながら参加していただくことが難しかったと感じています。

今後の課題・発展の方向性

今回の事業より、教育委員会の先生と密に連携して動くことができました。今後は更なる連携を図り、事前に子どもたちへの対象各事業実施予定日などをしっかり調査や調整を行えば、もっと素晴らしい事業ができると確信しております。

前記致しました通り、保護者の方からは次回あればまた参加させたいとの声もいただいております。その上で、今後事業を計画する際に、単年度で終わってしまうような企画ではなく、複数年続くような事業企画をしていくことで、市民の皆様により事業を知っていただき、多くの企業、団体に参加協力ができるのではないかと考えます。ひいては、青年会議所活動が周知され、より一層行政・企業・市民を巻き込んだ大きな事業となり、運動を大きく展開することができると確信しております。

活動を終えての感想・意見等

本年度の基本方針であります「共に生きる力」。これは、まちと力を合わせることで、運動を大きく展開する組織を目指していくというものであります。多くの企業、行政、市民を巻き込むような事業を展開して私たちの運動を一人でも多くの広めていくことが私たちの使命であると思います。今回、貴団体の支援金により、例年以上に事業を拡大できたこと、また多くの企業に参加していただく事ができたと感じております。

我々、防府青年会議所は、これからも、ひとのため、まちのために良い事業を行ってまいります。今後も貴団体の支援金対象となるような事業企画であれば、変わらぬご支援をいただけますようお願い申し上げます。

この度は誠にありがとうございました。

活動名	団体名	周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会
安田の糸あやつり人形芝居伝承事業	地域	山口県周南市
	代表者	会長 片川 久美子
	支援金額	30万円
活動概要	<p>【目的】 山口県指定無形民俗文化財「周南市安田の糸あやつり人形芝居」の保存・継承を目的として活動をしている。青少年への継承活動を通じて、郷土への関心と誇りを育み、健全育成に寄与することを狙いとする。</p> <p>【内容】 平成7年以来20年間、周南市立三丘小学校で総合学習の時間にこの伝統芸能を指導している。5～10月に5年生の児童を対象に行っている授業の到達目標を秋の熊毛地区総合文化祭で「傾城阿波の鳴門巡礼歌の段」を上演することとしている。そのために、授業時間に留まらず、学外での事業を、保存会主催で行っている。夏休みを利用して、人形浄瑠璃の本場阿波（徳島市）淡路（兵庫県南あわじ市）での体験型交流研修事業を、三丘小学校を含む地域の4団体の協力を得て保存会主催で実施。併せて、秋には徳島市から竹本友和嘉師匠を招聘し、2日間の指導を受ける。</p> <p>実施時期：5/10～10/30 参加人数：三丘小学校：職員2名、5年生児童9名 三丘三和会会員：11名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 528名</p>	



「人形遣い」の練習



「三味線」の練習



三丘小学校5年生上映



熊毛地区総合文化祭上演(観客数200名)

実施に伴う効果

日常生活ではなじみの無い人形浄瑠璃という伝統芸能に取り組むことによって、子ども達それぞれが技を会得する為に地道な努力を続けた。そして、発表にこぎつけた上演では多くの拍手をもらって、そこで得られた達成感、子供達の中に自尊感情と郷土への誇りを育んだと思われる。子ども達の生活態度、学習意欲の向上にとっても良い影響を及ぼしていると、学校の先生方の評価も高い。と同時に、その姿を目にした地域の大人たちの間にも元気をもたらしている。地域をあげてこの伝統芸能を継承していくことの大切さにあらためて気付かされた取り組みであった。

尚、この事業に思わぬ付随効果もあった。公益財団法人山口県ひとづくり財団より、全国フォーラムの歓迎アトラクションとして出演依頼があり平成 29 年 2 月 11 日(土)に上演の機会を得た。山口県の一地方での小さな取り組みが全国発進できたことは、子供達にとっても保存会にとっても大きな励みとなった。

苦労した点

- 伝統芸能を自分たちで上演するのは 5 年生になって初めての体験となる。「人形遣い」「浄瑠璃語り」「三味線」のいずれの技を身につけるにも練習を重ねるしかない。時には飽きて投げだしそうになる子供もいるが一定の山を乗り越えたらおもしろくなってよりうまくなろうとするので、そのあたりまでは、個々の子供の様子を見ながら辛抱強く指導しなければならない。仕上げの舞台の直前まで 3 分野の息がぴったりあう舞台になるか少々不安も残る状況だったが、本番では期待以上の出来栄で「恐るべき子どもの力」を見せつけてくれた。

今後の課題・発展の方向性

- 阿波淡路での体験型交流研修事業は、今年度で終了となるが、子供達にとって、伝統芸能を継承している他地域の子供達との交流は山口県内で続けて行くことにしている。幸い、保存会結成 70 周年を迎えたことを機に、近隣の浄瑠璃芝居を継承している保存会を昨年からは毎年 1 団体ずつ招待して「未来へ繋がる共同公演」を実施し始めた。それらの保存会もそれぞれが地元の小学校へ指導に行っているため、お互い交流して切磋琢磨し、ともに伝統芸能の継承発展を図りたい。
- 中山間地域の例にもれず、三丘地域も人口減少・少子化の状況が進んでいるが、地域では「いつまでも子どもがいる町三丘プロジェクト」を立ち上げ、地域をあげて空き家に住む人を呼び込む活動を続け、実際に 6 家族が移り住むという成果もあげている。引っ越した人の中には三丘小学校では 5 年生になると全員が人形浄瑠璃をやれることを期待してきた人もいる。そのような地域で保存会の果たす役割もますます大きくなると認識している。地域に根ざした活動で、地域とともにあゆんでいくことをめざしている。

活動を終えての感想・意見等

子供達とていねいにゆったりと関わりながら、人づくり・地域づくりを広げよう。恐るべきは子供の力！ いざという時は頑張る、その力を信じて。

活動名	団体名	長門市中央公民館運営協議会 子ども部会						
友だち100人プロジェクト ~異世代交流によるコミュニケーション能力の向上~	地域	山口県長門市						
	代表者	会長 小林 武人						
	支援金額	20万円						
活動概要	<p>事業開始当初から貴財団にご協力をいただいた「わくわく土曜塾」の活動は地域に定着し、2014年度に土曜塾を一步進めた「わくわく子どもクラブ」を立ち上げました。2015年度からは夏休みに「夏休みおたすけ講座」を開設し、宿題の支援や夏休みならではの講座を実施しました。</p> <p>2016年度「わくわく土曜塾」では、子ども・高齢者と年齢によって別々に行っていた事業をいっしょに開催する試みしました。子どもたちは異年齢・異世代の大人とかかわりからコミュニケーション能力を磨くため「友だち100人プロジェクト」と銘打ち、わくわく農園を拠点とした交流事業を行いました。</p> <p>子どもたち、高齢者それぞれに異世代の友だちを自然な形で作るための方法を模索した1年でした。</p> <p>実施時期 2016年5月～2017年3月</p> <p>参加人数</p> <table> <tr> <td>わくわく土曜塾 塾生</td> <td>61名</td> </tr> <tr> <td>夏休みおたすけ講座 受講生</td> <td>329名</td> </tr> <tr> <td>講師・コーディネーター</td> <td>301名</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">参加総人員 1,516名</p>		わくわく土曜塾 塾生	61名	夏休みおたすけ講座 受講生	329名	講師・コーディネーター	301名
わくわく土曜塾 塾生	61名							
夏休みおたすけ講座 受講生	329名							
講師・コーディネーター	301名							



6/11 七夕笹飾り作り-みんなで短冊を書いたよ



8/19 絵画教室-上手に描けたら楽しいね



8/28 木工教室-手を打たないように気をつけて



10/29 農園落花生収穫-沢山採れてみんな笑顔

実施に伴う効果

今年の土曜塾は異世代交流ということで、地域の高齢者に呼び掛けを行ったところ、20名程度の参加をいただきました。高齢者の方は子どもたちに元気をもたらした、楽しかったとの声もあり、また子どもたちにとっても、地域の中で顔と名前を覚えられ見守りにもつながっています。

高齢者だけでなく、中学生や高校生との交流もおこない、指導者を入れると年齢的に近い世代から高齢者まで多岐にわたる世代との交流をすることができました。

夏休みおたすけ講座では、夏休みの宿題に役立つ講座や、家ではなかなかできない、体験型の教室を設け子どもたちは新しい体験・発見をすることができました。

どちらにおいても講師の方から、子どもたちの楽しんでいる姿や、驚いている姿が嬉しい。来年も子どもたちに指導できるよう頑張っていきたいと感想をいただいています。

苦労した点

本年度は塾生 61 名おり、また低学年の参加者が増えています。土曜塾では学年による縦割班にしていますが、班の中で高学年の数に対し低学年が多くうまくまとまらないことも多くなりました。

そんな中でコーディネーターを各班につけているところですが、毎回各班（今年度は 8 班）に 1 人ないし 2 人のコーディネーターを配置することは予算の面で厳しく、人件費を抑えながら今後も活動の質を保つこと工夫がこれからの苦労するところです。

保護者の価値観が多様化しており、出欠の連絡などを含め集団での行動に理解を得られないことが多くなっています。

今後の課題・発展の方向性

今後も低学年の参加者が増えていくことが予想され、縦割班での活動においても影響があると危惧している。

講師やコーディネーターとは別に大人も子供たちと一緒に体験活動をする「おとなの土曜塾」の塾生を募集し、縦割班の中に入れることで危惧している班での活動を円滑に進めていきたい。また、大人も子供も一緒に活動していくことで、地域が一丸となって地域の子どもを育てていく環境を作っていきたい。

「おとなの土曜塾」については H29 より募集を行い、今年度の「友だち 100 人プロジェクト」をより具体的に一歩進める企画としたいと計画中です。

活動を終えての感想・意見等

本年度は当活動に御理解・支援いただきありがとうございました。今後においても貴財団の支援をいただくことがあるかと思えます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

第32回(2016年度) マツダ財団市民活動支援 贈呈式



広島県



山口県

<<広島県>>



ホテルまつり実行委員会



食べて語ろう会



防災教育を進める北小と地域の会



発達障害親の会 *PEACCH*



遊友クラブ



広島思春期問題研究会



みよし子育て学び支援あすなる



切串おかげんさんまつり実行委員会



まるごと府中実行委員会



大道山竹炭工房



広島県担い手同志組合おもろい農!



市民グループええじゃん (Asian)



子どものひろばヤッチャル



ママの働き方応援隊 広島東校



ELCAP(エルカップ : Etajima × Local × Culture × Art × Philosophy)



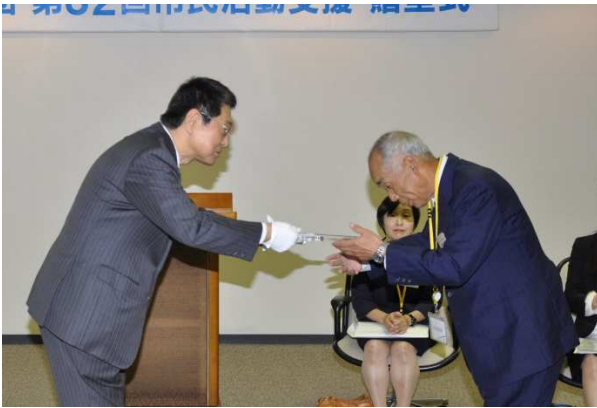
心豊かな家庭環境をつくる広島 21



Eフロンティア



若者活動サポートセンターあおぞら



花ネットワーク・BINGO



ひろしまドリームマップ協会



広島市シェアリングネイチャーの会



HMCN(Hiroshima Motion Control Network)



ひねもすようこそ



日本タッチ・コミュニケーション協会



絵本たねまき塾



My Life



福山市立山南小学校「環境守り隊 1・2・山南(さんな)！」



広島 懇親会



広島 懇親会



広島 懇親会

<<山口県>>



読み聞かせボランティア“こころ”



山口科学技術子供フォーラム



防府青年会議所



周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会



長門市中央公民館運営協議会 子ども部会



山口 懇親会

マツダ財団の活動内容等詳細につきましては、
ホームページをご覧ください。
<http://mzaidan.mazda.co.jp/>



市民活動報告書 第32回 2016年度

発行者 公益財団法人 マツダ財団
〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地 3-1
マツダ(株)内
電話 082-285-4611
FAX 082-285-4612
e-mail mzaidan@mazda.co.jp
発行日 2018年3月
印刷 マツダエース株式会社

公益財団法人マツダ財団